



昭和35年於徳島市、八代高校テニス部は
全日本高校庭球大会で優勝し
八代駅に降り立った！



道

八代中学・八代高女・八代高校

八高同窓会会報 第4号

編集・発行 熊本県立八代高等学校同窓会

平成24年10月31日発行



②思い出の八代駅

③同窓会長・学校長挨拶

④平成24年度 大同窓会報告

⑥各支部・地区同窓会紹介

⑪学年同窓会だより

⑯座談会「高16回～20回」

⑪母校だより

⑫八高史 新校歌「道」の思い出

⑬頑張ってます

⑭八代だより

⑮次回総会案内

思い出の 八代駅

かつて八代駅は、外の世界への入り口であり人生のプラットフォームでした。それぞれの印象や思い出をお持ちでしょう。そんな思いを語っていただきました。

八代駅へ 我が追憶のエントランス

高十回卒 服部 紀郎
(横浜市在住)



敬愛する岡山会長に阿蘇熊本空港から八代への移動手段を問うたら、市内への直行バスへすーぱーばんぺいゆに乗り、と言う。空港で少し待ち合わせの時間があつたが、便利なものができたものである。学生の昔、帰郷の折に汽車の窓から見慣れた田園風景と同じものが、快適なハイウェイ走行のバスの窓から見えた。

途中、新八代駅に停まった。新幹線の新駅らしく、広々とした近代的なたたずまいがバスの中からも覗える。だが当然ながら、まだ「立派なハコモノ」の域を出ない。ほどなくして次の停車は八

代駅前であつた。時間調整のためか、しばらくバスは動かなかった。駅正面の入り口から少し離れた場所だつたので、ほぼ駅全体が視界に入つた。

突然、歳とともに歪んできた顔が更に歪んだ。育つた故郷の「出入口」の変わらない姿のなかに、若かりし頃の自分が見えた。故郷に戻ってきた人々は、それぞれの思い出の場所に、遠くなった昔を重ねて感動するのであろうが、私にはそれが何故「八代駅」なのであろうかと思つた。

自分探しに時間を費やせるようになった時、人は過ぎ去りし日々の思い出の「入り口」を探すのだろう。そしてようやく判つたことだが、私のその「入り口」はこの駅だつた。

幼稚園から高校まで育つた家はその痕跡を留めず、故郷にはもはや親族も無い。だから「帰省」ではなく、八代に「行く」こととなるが、この駅（と古い友）は「いつでも、いつまでも、ここがお前の故郷だよ」と変わらない優しさで迎えてくれる。

私はマザコンであつたのだらう。母に寝められた一心で私は頑張ってきたのだ、と母の葬儀の席上で思った。

私の母はある時から、私の「悪さ」に面と向かつて叱ることをしなくなった。「注意」を与えられるのは、駅への見

送りの道すがらとなつた。だから「今日は私が見送りましよう」と言つた時は、何かの「悪事（大抵は想像がついてたが）」がバレて、今日は叱られるのだ、と覚悟した。発車のベルが鳴ると、決まって母は涙を見せた。いつまでも手を振る姿がボンヤリしてくるのは、ホームのその姿が遠く小さくなっていくから……だけではなかつたのである。

八代駅と青春の思い出

八高二十一回卒

鶴田 健

るがトンネルの入り口に入るたびに窓を開めなければ白いシャツが煤煙で真っ黒になつたり、時には顔に黒いすすで髭を書いたこともあつた。そんな高校時代、列車はいつも多くの人々で活気があつた。会社勤めの人、先輩や後輩、大きな荷物を背負つた行商のおばさんなど今でも不思議なほど鮮明に思い出す。まさに昭和四十年代の田舎の原風景である。

その後、高校を卒業して東京の大学へ進学することになり、八代駅から寝台特急「はやぶさ」で上京する日、希望と不安を抱えながら友人達に見送られ、列車がホームをゆっくりと離れていくときの何ともいえない思いが忘れられない。荷物はチッキ（手荷物）で送り、約十九時間の寝台列車の旅であつた。帰省の際もほとんどが寝台列車で、しかも値段も安い三段ベッドの最上段を利用した。それには訳があつて体が大きいため、最上段にしか寝られないかつたのだ。東京から列車が関門海峡を渡り、八代駅が近づくと工場から出る煙とあの何ともいえない臭いが故郷に帰ってきたという思いをいつそう強くした。

今も駅舎周辺の町並みを見ると遠い昔の青春の香りがするのはいきつと年を重ねたせいかもしれない。故郷は遠きにあると思つもの。



左の写真は現在の八代駅前の様子。表紙の写真とほぼ同じところから撮影(平成24年10月)。駅前はずっきりと整備されています。

駅舎の向こう側、日本製紙(旧十条製紙)の建物の壁面には、妙見祭告知のデザインが施され、今年9月に完成したばかり(横21.5m×縦18.5m)、迫力ある大きさです。

写真選定には、遠山写真館様にたいへんお世話になりました。写真ライブラリーの中に右の写真がありました。駅舎前のロータリーに池があつたそうです。(駅舎は右側 奥は交番 昭和31年9月撮影)



校歌『道』



会長 紀
岡山 元

「八代高校の校歌を今日初めて聞いて感動しました。こんなすばらしい校歌は、今まで聞いたことがありません」

この春の八高のセレモニーの後、感激した面持ちで言われた方がいました。その男性は熊本市内の県立高校の卒業で、八高の校歌はすばらしいと何度も言われました。

「ふるさと八代の明るい太陽、その下で尽きるこのない球磨

の流れと周囲の自然の美に深く感銘し、また現八高の雄姿と成長を思った通り素直に筆に表した」

昭和三十一年十一月二十日、お城の隣の旧校舎講堂で行われた校歌発表会で、東京から来校された作詞者の耕治人氏はこのように語られました。

耕治人氏は、母校から校歌の作詞を依頼する手紙が来たとき、「手紙を持つ手が震え、自分が育ったふるさと八代のいろんなことが思い出されて、歌詞を書いていく文字は涙で何度もかすんだ。こみ上げる感情を抑えることが出来なかった」と述懐しておられます。

まさに、校歌『道』は耕治人

が愛するふるさと八代への熱い思いと、後輩への励ましを涙の中で筆に表した望郷の歌なのです。耕治人氏は、八高での記念講演の後、四十日間、妙見町の悟真寺にこもって、小説の想を練られました。

この八高校歌の作詞が、作家耕治人に大きな転機をもたらしたと言われております。その悟真寺の境内には、田口嘉津義先生の発起による耕治人の文学碑が建っており、日本洋画壇の重鎮、中川一政画伯が書をしたためました。

校歌発表の時「女学校向きた」「賛美歌のようだ」との声が聞かれたそのメロディは、耕治人氏の知人で、二十六歳の新進作曲

家であった林光氏の作によるものです。林光氏は、当時、名前はまだ知られておりませんでした。その後、有名になりNHKの大河ドラマの作曲も手がけられました。

発表会の十日前、十一月十日に出来上がったばかりの校歌『道』は、音楽の田尻久先生の指導で、八高音楽部が発表会で合唱しました。従来の校歌とは違う、ゆったりとしたメロディに生徒たちの評判は芳しくはありませんでした。そのため、校歌の制定に携わってこられた田口嘉津義先生はがっかりして元気がありませんでした。

今、この校歌は、八高の卒業生や在校生は勿論のこと、旧制

八代中学校や八代高等女学校を卒業された方々にも愛され、親しまれ、歌い継がれております。今、思います。五十五年前、当時三年生だった私も、そして、他の在校生たちも、この歌のすばらしさについていけなかった、その良さを理解できなかったのだ。

このことを、校歌制定のためにご苦労された、今は亡き田口嘉津義先生にご報告したい思いです。

また、本年一月五日に亡くなられた林光先生のご冥福を祈りますと同時に、すばらしい校歌を作っていただいたことに感謝申し上げます。

「あいさつ」



校長 雄
唐津 和

私はこの四月の異動で八代高校・八代中学校に赴任しました。着任早々「私は八高〇回生です。」と保護者あるいは地域の方など多くの方々から頻りに声をかけていただきました。半年近く経った今でもそうですし、これから

もそうだと思います。本校の卒業生であることに、自信と誇りを持つておられることが強く伝わってきます。これまで、六月には関西同窓会総会、八月末には地元八代での大同窓会総会、そして九月初めの関東地区同窓会総会に出席させていただきました。どの会においても、多くの同窓生の皆様の八高に対する熱い思いや深い愛情、そして後輩たちに対する大きな期待、まさにこれが母校愛なるものかと思わせるものでした。

校長室には、歴代四五人の校長先生方の肖像写真が掲げてあります。旧制中学校九人、高等女学校一三人、新制高校二三人です。また、昭和三〇年代の薫の結まる重厚な校舎と八代城跡に隣接する校地全景の写真も掲げてあります。これらを見ているだけでも八高の伝統の重みを感じられます。

いま本校では、七七四人の高校生と二四〇人の中学生が学んでいます。高校生の数だけ見る

と随分と小規模になったと思われることでしょう。昭和五〇年頃の半分くらいです。とはいえ、例え生徒数は少なくなっても、八高生は八高生であり続けなければなりません。先輩方が綿々と継承し、そして創造してこられた八高の文化の中で在校生は醸成され、心と体を鍛え、知識を磨いています。社会に貢献できる人材を育てることが使命であることは、今も変わりはありません。先輩方の各界での御活躍が、本校が名門校として

確固たる地位を築いていただいている所以であり、このことが在校生の心の大きな支えとなっています。今後とも八高と八高への応援をよろしく願います。最後になりましたが、日ごろから本校の更なる充実と発展のために、物心両面にわたる御支援をいただき厚く御礼申し上げます。併せて、同窓生の皆様の益々の御活躍と御健勝を祈念申し上げます。

八代中学・八代高女・八代高校同窓会



恒例の大同窓会が、8月25日(土)八代ロイヤルホテルにて開催されました。今年度幹事、高校30回卒のテーマは「受け継がれしもの ―素晴らしきかな、我が母校!―」。そしてそのテーマを象徴するがごとく90歳代から20歳代までの同窓生550名余が集い、総会、講演会、そして懇親会と大いに盛り上がりしました。

午後1時半より開催されました総会には、炎天下にも拘わらず多くの方がみえました。

岡山元紀同窓会会長による一年を総括する挨拶を皮切りに、来賓の方々の挨拶が続きました。名誉会長でもある唐津和雄八代中学・高校長からは、現在の母校の様子や在校生の活躍ふりを知ることができましたし、各同窓会支部の会長の話からは、各支部の様子を垣間見ることがで

きました。支部の数も増え、これまで以上に来賓の皆様にお越しいただいた今年度は、まさに母校の結束力を見た思いがします。

その後、24年度の同窓会役員体制、23年度の同窓会行事、会計決算等の報告、24年度の行事、予算の承認、同窓会報、年会費納入、花馬奉納会などの報告が行われました。

講演会

『今できる相続対策』
～相続、他人事と思っ
ていませんか～とい
うテーマの元、今年度
幹事学年30回卒 安土
裕一郎さんによる相続

に関する話を楽しく、且つわかりやすくしてもらいました。
「親子間でも何となく為難い話題、また自分には関係ないと思っている人が多い。しかし、そういう意識がかえって家族、親族間の騒動を引き起こす。そうならない為に相続はかからなくても『相続対策』は早めにした方がよい。まして、相続税見直しに伴い、基礎控除が下がり相続税の対象になる件数が増加すると予想される将来、より真剣にこの問題に取り組む必要がある。」

では具体的にどうすればよ



いのか?まずはどのような財産があるのか棚卸をしてみる。次に相続の分配方法を考える。例えば「遺言書」、「養子縁組」、「生前贈与」等が考えられる。その中でも相続する人を特定することが出来る「遺言書」は有効で、特に子供がいない夫婦、或いは別居中の夫婦などは考慮する必要がある。」

いかがでしょう。この概略だけでも興味湧きませんか?



岩部 友里

絵葉書

青春の思い出



萱嶋 義邦



岩崎日出巳



松島 寿市



豊田 慶助



▲絵葉書作者花束贈呈

講演者の安土さんは、八代市内に税理士事務所を営む傍ら、相続税関係のエキスパートとして、九州一円を講演して回っています。その軽妙な話も勿論ですが、内容が避けて通れない事だけに、皆さん手元の詳しい資料を見ながら真剣に聞いていらっしやいました。

大同窓会



スパニッシュギターの独特の音色と共に会場に照明が灯り、力強い歌が始まると、バイレ達（踊り子）がステージへ。今年度の懇親会は、情熱的なフラメンコのステージで幕が上がりました。同じフラメンコスタジオ（熊本市内）に所属する八代高校卒業生5人が、迫力ある踊りを見せてくれました。あまり見る機会のないフラメンコなだけに、皆さんに楽しんでいただけたよ



うです。

同窓会会長、名誉会長の挨拶に続き、最高齢参加者の久保田宗一さん（中学35回）への花束贈呈と、今年度の目玉でもありました「青春の思い出残る母校を絵葉書に」という企画にご協力を頂き、絵を描いて頂きました3名の先輩方にもお礼と花束を贈呈致しました。その後、福島和敏八代市長（高校13回）の乾杯の音頭で宴が始まりました。同じテーブルの皆さんと旧交を温めていたのも束の間、会場の外にまで出た宴席、総勢430名以上の方々が、民族大移動のごとく動き始め、会場は楽しそうな話声、そして熱気に包まれました。そんな中、絵葉書の販売や、我が青春のひとコマを懐かしい歌と共に上映しました。宴も絶好調に達した頃、



八代中学、高女の皆様による校歌斉唱。

その皆様のお元気な様子に会場はまた盛り上がりしましたが、残念なことに懇親会はごんごん終わりへ近づき、次年度担当学年への法被の引き継ぎ式、そして恒例の最後を飾る最年少参加者による万歳三唱。今年は、高校54回卒の「^{はじめ}萌子さん」による見事なスピーチ、そして万歳三唱で幕を閉じました。

お陰様で、3名の先輩、同級生、現役高校生に描いてもらった絵を元に作った絵葉書も完売し、手作りした菜になる箸袋もとても好評を得ました。終わって、「良かったよー」と声をかけて頂いた時、私たち30回卒の肩の力もふっと抜けました。頑張った良かった！



学年同窓会

「ビールが美味しいー」まさに労働の後のビールの味です。朝早くから受け付け、箸袋作り、絵葉書販売、会場整理、宴会のお手伝いなど、全員本当によく働きました。盛り上がりがないはずがありません。6名の恩師の先生も駆けつけてくださり、話に花が咲きました。そして何と次の同窓会は、全日空のパイロットをしている同級生の操縦する飛行機に乗って、石垣島でする事に決まりました。残念ながら今回参加できなかった同級生の皆さん、ぜひ次回石垣で盛り上がりましょう！（高30回卒）



各支部・地区同窓会からの「お便り」を紹介します。

関東地区同窓会

関東地区同窓会は、関東一都六県とその近県に在住する卒業生、旧職員等を会員として活動しています。会員はおよそ二千四百名で、一〇回卒の守屋会長、一九回卒の中村事務局長を中心とし、学年幹事会を開催して運営しています。

活動は「総会・祝宴」を中心としており、「クラブ活動」や「任意の飲み会」等を行っており、ホームページやfacebook、メール、リンクリスト等を情報開示、連絡等に活用しています。以下に活動の内容をご紹介します。

九月八日(土)十三時 同窓会総会を開催しました

今年の当番幹事は三八回卒の皆さんで、信濃町の明治記念館で開催しました。

ご来賓には、本校同窓会の岡山会長、本村事務局長、現校長の唐津先生、恩師の吉良純二先生、高野茂樹先生をお迎えしました。

第一部は総会で、開会の辞の後、会長、ご来賓の皆様にご挨拶をいただき、会計報告とその承認で終了しました。

第二部は祝宴で、横田前会長のご発声で乾杯してお楽しみの宴会が始まりました。

まずは歓談でビールやワインで先輩後輩入りまじり和やかに旧交を温めました。

その前半の大人気は、司会を担当してくれた、NHKのお天気キャスターでおなじみの平井信行さん。司会の合間に「ひらいさくん」と握手や写真撮影で引つ張りだ。陸上部出身の平井さんは余興では陸上のユニフォーム姿で、大盛り上がりでした。

歓談の途中でくまモン登場、今度は「くまモン」と会場中が大興奮、あつちこつちで記念撮影。

その間にプロの漫画家の立迫文明さんが会場をまわり、似顔絵プレゼント。

後半には三八回の上村葉子さんのベリーダンスグループによるダンスパフォーマンスとワークショップが開催されました。



平成24年度 熊本県立八代高等学校関東地区同窓会



今度は「ベリーダンスはベリーグー」と、おやじギャグがあちこちで飛び交い、舞台上では教わりながらぎこちなく腰を動かして、大盛り上がりでした。いやいや、三八回の皆さんは芸達者な方が多いようですね。

最後は、三四回卒で東京藝大出身の音楽家、本岩孝之さんとくまモンと一緒に校歌を歌い、万歳三唱で幕を閉じました。例年になく派手でにぎやかで楽しかったので、来年の当番幹事は、「プレッシャーですな」と一言、頑張りましょう。(〆)

分科活動

会員それぞれで集まっては飲んだり遊んだり、学年ごとの同窓会も盛んに開催されており、特に横田前会長の主催される「街歩き同好会」は好評で、様々な年代の同窓生が集まり、色々とところを数時間かけて遠足？されています。秋にはお台場、レインボーブリッジ散歩の予定です。

これまでは、ホームページ「八高関東どつと混む」での募集と活動紹介だけでしたが、これからは、facebookのグループ機能

などを利用して、「八代高校関東地区同窓会」や「八高居酒屋探検隊」「八高お散歩倶楽部」などで、クラブ活動や個別活動の情報交換を行います。ぜひご参加ください。



広報

ホームページは愛称「八高関

東どつと混む」で、総会・祝宴の案内、写真、幹事会の議事録、クラブ活動の案内、住所変更届などを掲載しています。ホームページをご覧ください。

また、facebookでも「八高関東地区同窓会」のページを中心に活動しており、今後はグループ機能と実際のクラブ活動、日常活動とをシンクロして「八高お散歩倶楽部」「八高居酒屋探検隊」などを運営していきます。

お願い

関東地区の皆様はぜひ積極的にご参加ください。なお、住所変更はホームページでも出来ますので、関東地区での移動、転入転出などの場合は、ご利用ください。

また、他の地域にお住まいの方は関東地区にお寄りの際には、ぜひ同級生などに連絡を取ってみてください。飲食店などは山ほどありますので、大歓迎で迎えてくれると思います。



関東地区での住所変更は、ホームページ www.85kantou.com をご利用ください。

私たちの関西同窓会

第21回 総会・懇親会 (平成24年6月2日)

喜寿のお祝い(高七回生) 懇親会129名、二次会に66名



「よか校歌ですなあー」「八高の同窓会は楽しかですな」「二次会も参加してよかですか」懇親会にお招きしている友好同窓会のご来賓から、今年も声がかかりました。

総会は六月の第一土曜日午後を恒例としています。今年の担当学年二三回生は各地から二〇名が参集し、同級生の絆を示し懇親会を盛り上げてくれました。

春、秋の大和路ハイキングや年一回の《八高会ゴルフコンペ》などで更に親睦を深めています。

『道』響きわたる
会長 宮崎 正郎(高十四回)

梅雨空特有の雲の下、同窓会の為に九州から駆けつけてくれた友との前夜祭の余韻と、寝不足の体を引きずり同窓会々々場へ。

会場では既に受付担当の同級生達がテキパキと活躍中。役割決定会議不参加の私は欠席裁判とやらで何と、懇親会司会役。

昨年まで関西同窓会の存在さえ知らず、会の雰囲気も分らぬ私の不安をよそに時は刻々と進み、宮崎会長の発声で幕開け。

初の試みである同窓生による総会での講演や懇親会でのフラダンスへの反応は、同級生として気になる所だったが、時に頷き笑いあいの講演や、年を感じさせぬ可愛いお色気で大いに会場を盛り上げてくれた。我が八高三回生にフラボー♥である。

司会者としての私は、久々に

フラボー!! 八高

山本 玲子(高三回)



大勢の方の前でマイクを手にし、柄にも無く緊張。当日の事を思い出すと赤面ものだが、未熟な私を含めて、全てが私である。

そして、同窓会などと言ったものは司会者としてではなく、一般参加がベストであると思う反面、又この様な機会があれば体調・事前準備を整え挑もうとの思いに至っている。

百点には程遠い司会であったが、退場時「楽しかった」の言葉を下さった方々、笑顔で握手、ハグをして下さった方々に幹事学年の一員として感謝!!

生徒とフラを踊った同窓会

塩濱智香子(高三回)



今まで同窓会は知らない人ばかりだからと敬遠しておりまして。ですが、今年は還暦で幹事だといふことと、同級生木島君が副会長として長年お世話していることもあり、同窓会デビューしようと思いました。



「フラを踊らんね」という思いがけない申し出があり大喜びで引き受けました。フラの準備とステージでほとんど皆様とお話できませんでしたが、踊り終わった後、先輩たちが声を掛けて下さいました。皆さんの年令を感じさせない若々さと気迫に驚きました。

生徒達も「皆さんお若いですね」と口々に言っておりまして。こういふ会に積極的に参加される姿勢がそういう生き生きとした雰囲気をももたらすのかと感心しました。

吉尾君の「脳のはなし」にも刺激を受けられた御様でした。

校歌を歌った時、四十年以上も前のやんちゃで生意気だったあの頃を懐かしく思い出し涙ぐんでしまいました。故郷を離れ関西に暮らす私達の中から時々飛び出す熊本弁に「あーいいなあ」としみじみしました。

最後になりましたが、フラを踊らせていただきましたことを深く感謝いたしております。

八代高校同窓会 福岡支部だより

第三回福岡支部総会は、二月十一日(土)に盛大に開催されました。参加者は九十九名、現役学生一名と初参加の若者も増え、イベントの門司港名物バナナのたたき売りも盛況でした。



二年前の突撃インタビューの事

二〇一〇年九月、同窓会つくりのため、ソフトバンク・ホークス秋山監督にインタビューに行ったときの事です。

広報委員の占部さんから誘いの連絡があり、「ペナントレース

優勝争いの今ですか?」と言いましたが、「私が手紙は書いたけど、もし会われんでも、これは置いてこよう」といわれるので、ヤフードームの球団事務所もわからないまま出かけました。何

人もの人に尋ねながら、やっと関係者の方に会う事ができ、その後、向こうから連絡を頂き、インタビューが実現しました。こんな時だからこそ、監督が同窓生に会い、故郷八代の話をするの、タイミング的にいいのでは、というお考えもあったようです。

その時のインタビューの中で今も心に残っているのは、高校時代の投手体験が活き、指導面で、「自分で



兄弟校として『済々黌福岡同窓会』に招待されました

六月三〇日(土)ホテルニューオータニ博多で開かれた『第五回済々黌福岡同窓会』に招待されました。明治十五年に創立され今年一三〇年を迎えた済々黌は、今年初めて兄弟姉妹校として六校の福岡同窓会の代表を招待しお祝いをしました。八代高校は、明治二九年済々黌八代分校としてスタートし、今年一一七周年を迎える正真正銘の兄弟校です。

会では、参加各校の校歌をキャンパス映像を交えて紹介頂いたことはすばらしい演出でした。私もいつもより声を張り上げて校歌「道」を歌い



ました。「綾錦裏に襲ねていつつましく」(尚綱)、「大阿蘇は焰の叫び」(鹿本)、「塵かん遠く隔てなる」(天草)、「西に金峰

東阿蘇」(熊本)、「若駒高く」(玉名)、「碧落仰げば偉なる哉」(済々黌)等、時代がかった校歌が多い中「遠く聞ゆるは八代海の潮音か」で始まる八高校歌は、あくまで優しく静かに生きる道を説き、あらためて名歌だと感じました。

また、済々黌OBによる応援団の演舞は大応援旗、黒の制服、胸元の黄色のライン、そして破帽。雄々しく見事な校歌に感動しました。

済々黌福岡同窓会の皆様のお陰で、兄弟姉妹校の絆を深めることができた感謝の夏でした。

野口(大原) 春生
(高一九回)

来年の同窓会は7月です

考え調整していく事が大切」と伝えていて、という事です。また年齢・性格・国籍も違う選手たちに自分の気持ちを伝える事の難しさを感じる、という言葉もありましたが、日々考え向き合う姿勢があるからこそ、ホークスは強いチームになっていくんだなあと感じました。



福岡の七月は山笠一色です。午前中博多の街中を歩くと、水法被姿の男衆に出会うこともしばしばです。一日には福岡市内十四力所に飾り山が設けられ、それから十四日の夕方まで街を賑わせてくれます。

次回、福岡支部同窓会は、平成二十五年七月六日です。例年の開催は二月でした。寒い時期でもあり、また、参加人数を増す目的もあって開催日の変更が提案されました。佐藤会長からの「山笠見物を兼ねた七月はどうか」との一言で七月開催の運びとなりました。会場の八仙閣はリニューアルされて、お料理

同窓会に参加するたび皆様と仲良くなり、八代の話でまた知らなかった美しさや力強さを確認するのも楽しいです。

秋山監督への応援や期待は各々強いものがありますが、同窓会一丸となって応援していきたいです。

村田 洋子(高三二回)

も充実、楽しい会になりそうです。同窓会の運営は、会員からの会費でまかなわれていますので、多くの卒業生の皆様に広く知っていただきたいと強く思っています。来年も、博多の街の観光を兼ねて、多くの会員の皆様の参加をお待ちしております。また福岡には、八高卒業生が大学生や専門学校生となり沢山居住しておられます。多くの学生の皆様に同窓会を知っていただくために、支部では告知の方法を模索中です。

なにか良いアイデアがありましたら教えてください。

例年の二月の同窓会とは異なり七月は暑いですよ。福岡支部の熱き想いをお届けします。

占部万里子
(高三〇回)



熊本地区同窓会

支部近況報告

ひと言で申しますと、順調に推移していますが、その中で私のアンテナに入りました同窓会員ニュースをいくつかご報告します。

◎旧制中学四八回卒・與繩 薫先輩が、熊本県中小企業団体中央会会長を、勇退。十五年間中小企業発展のため、ご尽力を賜りました。ご功績に心から敬意を表し、ご慰労を申し上げます。

◎四月から六月にかけての慶事。①春の危険業務従事者叙勲で、高校七回卒・県警OBの平川平八さんが瑞宝双光章を受章。②十三回卒の守屋克彦さんが、熊本県信用組合理事長から代表権のある会長に。③十八回卒の松本富士男さんが、熊本シティFM社長に。④二七回卒の沼田雄一さんが、熊本中央信用金庫専務から理事長に。各々のご栄進を称え、七月五日、有志一同で祝賀会を開催。

◎二二回卒の木下敬史さん、九州学院自転車競技部監督が、今年のインターハイで二十二年振り、三回目の優勝。以上、記載洩れもあるうかと思いますが、各界各層で、同窓の皆様が活躍

されている一端をご紹介しました。

会長 富田 徹也

愛知地区同窓会

四四八高会

今年の幹事は、演劇部のマドンナだった美代ちゃんと、テニス部で活躍した私でした。名古屋市北区にある徳川園で集いました。参加者は十三名です。欠席が二名ありましたが、新規加入者二名と奥様同伴が一名あり、楽しく過しました。

新規加入者は五十四年卒の二人です。一人は単身赴任で五年目の名古屋人、もう一人は家族と住んで十二年目の人です。名古屋に骨を埋めるつもりとのこと。十年という年の差は感じないほどの親しみのある方々です。

懐石料理を楽しみながら、おしゃべりに花が咲き、満足な時間を過ごすことが出来ました。八高時代の話、現在の八高の話、秋山監督の話も出ました。そして、野球の話が続きます。教員が甲子園に出るので、バスを仕立て応援に行く話、息子が現役のドラゴンズの選手と中学で同級生だった話も出ました。節電の話、家族旅行の話、里帰りの話、ゴルフの話と、話は尽き

ません。年二回のペースだったゴルフの会は、月一回行くようになり、健康でいられるのが、嬉しいが、スコアが上がらないという悩みもあり。男子は、定年から三年目なので、仕事の数も減り、収入も半分になりとボヤキ、それを新人二人が十年後の自分を受け止めたようにうなづきながら、聞いていました。

今年は初の試みで、カラオケを企画しました。二時間たつぷりと歌って、皆、幸せそうでした。「古い歌ばかりね、誰か新しい歌を唄ってよ」などと、言いながら、皆で大合唱をしました。曲名が出て、「知らない」と、いいつつも、曲がかかると、唄ってしまうものですね。お互い、気を使うこともなく、存分に楽しめたようでした。新人二人は、「来年からも、ずっと参加したい。そのうち幹事もやりま



す」とのこと。仲間が増えて、皆大歓迎です。来年も笑顔で集えますように。
(高二二回卒) 岡田多美子

岡山地区同窓会

中四国同窓会

今年も六月三日、中国・四国や関西からもご参加を得て、中四国同窓会を開催いたしました。



特に、近隣の島根、広島、香川、徳島などのご参加者からも高校を卒業して以来、初めての同窓会へ参加して、楽しいひと時を過ごさず事ができました、との嬉しいコメントもありました。



懇親会では中学四八回卒と高校一回卒の先輩に旧制中学校の校歌をご披露いただく場面もあり、各々が高校在校当時を思い出し、懐かしく語り合いました。
岡山の新会長に森田敦史氏が選出されました。(高十四回卒)

新年会

一月の新年会で年間の同窓会行事のスタートです。

年間の行事予定や総会などの内容を協議しますが、やはり、肥後の出身者ばかり、飲んべエの集まりです。(女性方には申し訳ない...)



暑気払い

夏の恒例行事はビアガーデンでの暑気払いです。岡山にいる大学生諸君も招いて、高島の屋上で大きなジョッキを「乾杯！」



ゴルフコンペ



秋には有志でのゴルフコンペもあり、愛好家の皆さんの楽しみの恒例行事です。

岡山同窓会では、近県からも多くの皆さんのご参加をお待ちしております。また、PCメール便で同窓会便りを発信しておりますので、皆様方からのご連絡もお待ちしております。

事務局 (吉田) ☎ 086-276-3979
Eメール mic-y@ff.ij4u.or.jp

大分地区同窓会

支部発足の経緯をふりかえってみました。夏の高校野球県予選で、八高野球部が決勝戦まで進んだのは、三十二年前のこと。この年に、七回卒宮本清任先輩が中心となり、三回卒前岡(石川)峯子会長のもとスタートする。秋山選手(ソフトバンク監督)が中心のチームで、熊工伊東捕手の一打で、甲子園の夢は、かなわなかった記憶がある。

当時の会員は、校歌「道」ができた昭和三十二年以前と以後では、前者のほうが多かった。八回卒有働さんは、「車内ラジオで同窓会案内を聞いた」と中津からもかけつける。

山岳部OBの佐藤先輩は、八代から参加される。昭和三十年、夏山登山で遭難事故の悲しい話を。阿蘇仙酔峡に、故人を偲ん

で、OBによる碑が建てられている。

先生の名前は忘れていたが、アタ名は思い出す。「鉄力フ」に「私の父です」と、白木さんが来ていたんです。

先輩の「八高生徒歌」に続いて、校歌「道」を、十回卒嶺(西村)宏子さん指揮のもと披露する。声の小さい私は、嶺さんに尻をたたかれ、少し大きい声を出す。

同期の和田さんは、「サーカスの唄」にあわせた、綱渡りの芸を。一同拍手喝采。負けじと私も、正調「五木の予守り唄」の前奏を歌うが、座は白けて反省する。



十年間続いた会も、転勤や転居等で、いつしか消滅する。

一昨年、十五回卒、松本宏次さんの熱意で復活する。昨年は、前岡さん宅別荘で、打合せ、なにかと御世話になっています。

会員は、初対面の人が多く、かたぐるしかった雰囲気も、妙見祭、花火大会等の話題から、うちとけるに時間はかからない。別府湾、高崎山を背景とした、次回の開催が待ちどおしい。特に八代美人との再会は、楽しみです。「今甦る青春の詩」のCDを、バックに流し、語りあいたい。

高十回卒 砥上 正利

山口地区同窓会

山口県同窓会設立総会

重田千恵子(高十八回)

平成二十三年十一月十二日に山口県同窓会設立総会を山口市で開催しました。本部から衛藤繁校長先生、岡山元紀同窓会会長、本村勘治同窓会事務局局長をお迎えし、山口県内と八代・熊本・広島・岡山からの同窓生、そして山口の熊本県人会会長さんがお祝いにつけて下さり、総勢十八名となりました。総会では、まず校長先生と同

窓会会長より祝辞をいただき、また、福岡支部からの祝電が披露されました。続いて議事に入り、会則の承認と会長選出がなされ、山口県同窓会会長に山下鐵洋氏(高十四回)が決まりました。

記念写真撮り、隣の懇親会場へと移動してからは、総会の緊張感が消え、賑やかな話し声に包まれ始めました。山下会長の挨拶の後、山本和男氏(中四十八回)の「乾杯!」で一気に盛り上がりしました。八中・八高時代の思い出話にやっつろり弁も飛び交うようになった頃、「グイズデ八高」という八高や八代に関する問題が出され、見事賞



品を手にしたのは吉田高範氏(高十八回)でした。

予定時間を過ぎても話は尽きそうにありませんでしたが、校歌を斉唱し、閉会しました。二次会組はそれからまた盛り上がったそうです。

故郷を離れた地で故郷と青春時代の話を共有できる人に会えるのは同窓会の良さです。山口県同窓会では同窓生の親睦を図ることを一番の目的とし、毎年秋に懇親会を開く予定ですが、全国の同窓生の皆様にも「おいでませ山口へ」と参加を呼び掛けています。

【文中に登場した以外の出席者(敬称略)】村島靖彦(高五)・竹内洋子(高十六)・森中登美子(高十七)・山本秀二(高十八)・滝川源治(高十八)・小村達義(高十八)・片山茂光(高十九)・中村裕子(高二十一)

広島地区同窓会

広島県には、これまで、八代高校の同窓会組織はありませんでした。

しかし、昨年、岡山市で開催された同窓会に出席された広島県内の同窓生の方を中心に、広島県内でも同窓会を設立しよう

という機運が盛り上がり、今年二月から、設立準備会を立ち上げ、同窓会設立に向けた準備を進めてきました。

そして、去る九月一日、八十歳台から四十歳台の同窓生十五名の参加を得て、設立総会を開催しました。会には、八代から岡山同窓会会長及び本村事務局長にもご出席いただきました。

設立総会では、規約案、役員案及び今年度の事業計画案を、出席者全員の承認を得て決定しました。

さらに、設立総会終了後には、

懇親会を開きました。懇親会には、福島八代市長も来賓として駆けつけてくださいました。また、同窓会設立のきっかけを作っていただいた、岡山同窓会から吉田様にもご出席をいただきました。

初めて顔を合わせた方々がほとんどでしたが、さすがに同窓生だけあって、すぐに打ち解け合い、在学当時の話や、最近の話題などを和気あいあいと語り合っておられました。

また、福島八代市長には、最近の八代市のお話も熱く語っていただき、会場は大いに盛り上がりしました。

最後に、校歌を斉唱し、写真撮影を行い、次回の同窓会での再会を約して散会しました。

現在、広島県内の同窓生は約八十名です。これからは、さらに多くの方々に同窓会に集っていただけるような会の運営をして参りたいと考えています。また、今後は、既に同窓会を設立しておられる岡山県や山口県とも連携した活動もできればと考えています。

次回同窓会は十二月を予定しています。広島県内にお住まいの同窓生の皆さん、是非ご出席ください。

高二八回卒 村田 栄治



学年同窓会だより

高女
43
回卒
昭和22年卒

秋の食卓会

「久しぶりに会いましょう」学年代表の西田さんからの電話が来る。さっそく電話をまわす。八代市近郊中心の食卓会である。当日はあいにくの雨にもかかわらず駆けつけた人二十三名。「お元気でしたか」お互いに声をかけ合って再会を喜び合う。葵寿司の花籠会席をいただきながら隣のひと、前のひとと喋りに花が咲く。出席の人の中には体調を崩している人も多い。まだまだ元気で人のお世話をしたり、趣味を続けたり、ミニバレーにまで参加している人、もいて前向きで羨ましい。みんなの消息を確かめ合い、元氣



趣味を続けたり、ミニバレーにまで参加している人、もいて前向きで羨ましい。みんなの消息を確かめ合い、元氣

で会えた事を喜ぶ合いながら「又ね」と散会する。

「二度はこれでおしまいにしよう」と云っていた木綿葉の会も「近くの人のたけでも集まろう」というみんなの熱い思いが再会を果たした。

お世話下さった方に只感謝するのみ。八代高女の同窓生として、八高同窓会の一員であることに誇りを持って元気で過ごしていきたい。

八代高女四十二回

香山セツ子

八高
4
回卒
昭和27年卒

にいなな会 傘寿の会

会報二号で喜寿のお知らせした許りですが、四号では傘寿祝いの報告です。私達は八高を卒業して六十年、にいなな会を開設して四十年、光陰矢の如しを実感しています。今回は男子四十九名、女子はアメリカからの参加もあり四十二名、恩師は原田琢磨先生と江藤恵治先生が出席され、それぞれ短歌と俳句に親しみ、散歩を欠かさない日



課だそうでとてもお元氣、壮志なお已まんの気魄を感じました。そんな先生の勢いに刺激されてか総会も盛大を極め、カラオケもなし演芸会もなしで只管語り合い、飲み続け、旧懐を温めながら傘寿の青春を謳歌しました。皆の笑顔が嬉しさに輝いていたのがとても印象的でした。この笑顔にいつまでも出逢いたいも

のです。

翌朝早々、遠来の人達を含む一部の人達は、貸切りバスで平戸島観光に出発しました。

最後に、にいなな会員の「壮健を祈ります。」

徳永 三幸

八高5回卒

昭和28年卒

ミニ同窓会

平成二十三年度最後の三月二十九日・三十日、第五回日刊スポーツ・ニッタク杯ラージボール卓球大会へ参加するため、八代ラージボールクラブの八名の選手の中に第五回卒（昭和二十八年三月）の二名が含まれていた。一人は五回卒の役員である阿部淳子選手と八代ラージボールクラブの代表澤田九州男



写真は前列右から高木・横田・澤田
後列右から阿部・野津・小林

である。

二十九日浦安運動公園体育館へ到着し試合が始まった頃には二人位の同級生が来ていたらしく予選リーグを二位で通過して二階へ上がると、男性二名女性二名の同級生が応援にかけつけてくれた。

男性は横浜市から高木平二さんと埼玉草加市から横田智昭さん、女性には千葉県白井市から野津朋江さん（旧姓渡辺さん）と小林映子さん（旧姓長橋さん）の四名である。

試合は決勝トーナメント二回戦で負けたので、私たち選手二名は単独行動を取り四名の応援者と共に私たちが宿泊しているホテル舞浜ユースシアへ帰り、六人でのミニ・二八会となりました。私と横田さんとは太田郷小学校からの友達であり小林さんは三年間の卓球部仲間であり、野津さんは三中からの同級生、高木さんは卒業時隣の組だったこともあり、いつの間にか全員が昭和二十六年～二十八年頃に帰って、八代高校旧校舎の思い出や今の八代東高校校舎へ通った事、クラブ活動の事、担任の先生の事等二時間程中食を取りながらの同級会でした。

翌日は個人戦があり、卓球部の先輩である高三回卒大森將雄

さんの応援をいただき、私と阿部さんは、来年の世界フーシボール大会への誘いを受けた次第です。

八代高校第五回卒

澤田九州男

八高8回卒

昭和31年卒

八代高校八回卒 七十五歳記念同窓会を 振り返って

去る五月十九日に古希から五年、ふりに開催致しました。喜寿まで待つのは期間が長すぎるとの話で、後の事は後でまた考



えようとすることになり、ここ

まで長生きしたお互いの元気な姿を分ち合おうじゃないか、名目を七十五歳記念として多少ましういこともありました。七〇名（四〇〇名の卒業）が参加して盛大に無事に行事が出来ました。

恩師は唯一人原田琢磨先生だけとなり隔世感を感じます。それだけではない、同級生の中で何と体調不良と物故者が多い事が気懸りです。しかし現役で働いている人は元気があります。人生の終路（第四コーナー）を迎え、お互いに体を大切にしよう。今後、喜寿・傘寿等を名目に要望があれば何回でも同窓生の集まりを企画します。

この機会に感謝したい人がいます。何回か同窓会を開きました。何回か同窓会を開きました。たが全ての会に出席して頂いた人、山形県羽黒市在住の緒方光子女史です。紙面で失礼ですが感謝申し上げます。

同窓会記念写真添えて報告とします。

学年代表 松永 学

八高10回卒

昭和33年卒

香川県
『小豆島・栗林公園・屋島』
でみどりの風を！



壺井栄著の『二十四の瞳』は昭和二十七年に新潮文庫から発売され、その二年後に監督木下恵介、主演高峰秀子で松竹で映画化。叙情性あふれた作品として大好評を受けました。当時はまだ中学生でしたが、集団映画鑑賞で市内の映画館へ見に行った遠い記憶が残ります。

今年の恒例「関西三三三会バスツアー」は、その舞台となった小豆島をメインに、みどりの風を求めて五月七日から二泊三日の旅に出かけました。

『小豆島』は瀬戸内海で淡路島に次ぐ大きな島。島へのアクセスは、姫路や岡山からもありますが、今回は播州赤穂を経由して備前市の日生（ひなせ）港か



船内のBGMが何時の間にか小柳ルミ子の『瀬戸の花嫁』に変わり程なく島の北の玄関口大部港に着岸。此処から一泊二日の島の旅の始まりです。

初日の宿泊は、日本の夕陽百選の宿「国民宿舎小豆島」。大浴場からは、橙色の夕陽が西の島影を茜色に染めて沈みゆく様が手近に眺望されます。

明日から島内の観光→寒霞溪→平和の群像→土淵海峡→オリブ公園→二十四の瞳映画村→岬の分教場→巡りを順々に頭に描きながら就寝。

来年も、五月の連休明けには二泊三日のバスツアーを実施します。訪ねる先は『北陸路』日本海の荒波が打ち寄せる東尋坊にはどんなみどりの風が吹き叫んでいるでしょうか？期待に胸弾みます。

関西三三会 幹事長
橋口 敏昭

八高11回卒

昭和34年卒

船上のデッキには瀬戸内の潮風が爽やかに頬に触れ、浮かぶ日生諸島の大小の島々には、落日を待つ太陽が柔らかな日差しを投げかけ、島影を濃く映し出しています。

友人からの電話で、七月十七日関東地区三十四年卒八代高校同窓会を赤坂のマキシムド・パリで開催との情報が入りました。当日は十九名出席十三名は仕事



や他の理由で欠席。

フランス料理を食べながら近況報告等で盛り上がり。その後は近くの喫茶店にて名残りを惜しんでの散会この事でした。

我々八代組は本校の



大同窓会に結集。元気な顔を見せて下さい！葉書が足りないのので皆に出せません！お友達を誘って下さい。と呼びかけました。数名の方が体調を崩している来年は出席との返事に来年が又楽しみです。出席者二十八名で再会を喜び合います。

した。同級生とは瞬時にしてあの高校生時代へタイムスリップできるのが良いですね。この親しみは何だろう。兄弟姉妹ではないのにそれ以上に近い存在、話し足りない、時間が足りない、そんな想いのうちに会は終了。二次会のカラオケでは、それぞれの人生を感じさせる歌い振りに脱帽。明歴々露堂々。

村上満智子

八高13回卒

昭和36年卒

古稀同窓会報告

五月十九日「我ついま青春」を合言葉に八代ロイヤルホテルで盛大に行われた。



幹事一同は元気で学年同窓会が出来るのもこれが最後かも知れないな、と言いながら準備に入った。古稀同窓会に参加した者一二五名。連絡等が取れた者の五割に近い参加であった。全国各地からの参加であったが、中には参加したいが体力の限界を迎えている、皆さんに宜しくとのメッセージもあり涙を誘った。酒宴の席では元気で出来る最後の同窓会になるかも？との話が出る、次回はいつやるのかと声が飛んだ。オリンピックと同じく四年後、いやそれじゃ遅い、中には毎年でもやれとの話も出る始末であった。結局は二年後に再会しようと言った。まった。

一次会もあつと言つ間に過ぎ、ほぼ全員が二次会へと繰り出し

て行き、三次会は、ざらで四次会までと続いていた。

高十三回卒 水雲 滋明

八高14回卒

昭和37年卒

『ディナーショー』で
『古希』を祝う

平成八年に「三七会」を発足させ、毎年欠かさず旅行や親睦会を開催していますが、今年は卒業後五十年、数え年で七十歳という節目の年で、九月八日夜、八代ロイヤルホテルでディナーショー付きの「古希の集い」を開きました。



当日は地元八代・熊本はもとより関東、関西、福岡などから八十三人の同級生が参集。また、恩師の藤間効先生（夫妻も出席）に華を添えられました。

ショーの出演は日本ラテンジャズ界屈指の「Masayo with Tinos」(四人)。キサス・キサス・キサス、キエンセラなどスタンダードナンバーやオリジナル曲を情感たつぷりに披露。会場も一緒になって手拍子、足拍子、一緒に歌ったり、掛け声を掛けたり、ジャズの魅力に浸りました。演奏後はメンバー四人も懇親会に加わりみんなと交流。「学年同窓会に呼ばれたのは初めて。とてもいい雰囲気」と感激していました。また参加者も「古希のいい思い出になった。次の節目の喜寿までは元気でいたい」と大喜びでした。

来年の三七会は福岡での開催が決定。地区在住の三七会員は「趣向を凝らして迎えたい」と張り切っています。

三七会 村山 忍

八高17回卒

昭和40年卒

八高十七回卒
『四〇よろー会』
六十五歳同窓会



昨年十一月二十二日(火)十六時より八代ロイヤルホテルにて六十五歳同窓会を総勢一二九名で開催致しました。今回、国の重要無形民俗文化財に指定された妙見祭を、御夜と翌日の祭り見学にて、企画しまし



た。八代を離れ遠くは北海道・宮城からの参加。八代市内以外の参加者が、約七十名でした。同級生の『三草の寅さん』の熱演、『田尻ミサ音楽教室の青い山脈』高校三年生を皆で合唱。大盛会のうちに終了。その後妙見祭の御夜見学↓ロイヤルにて二次会↓六十名で予約した二次会場が百名近く参加。話が終わりませ

ん。

翌日、妙見祭当日、ロイヤルホテル前で八代高校の飾り馬を見た遠方から来てくれた高校時代の悪ガキの皆さんが、懐かしそうに涙ぐみ、馬の鼻に触っていました。祭り見学したメンバーより、『祭りも御夜もよかった。有難う』幹事の皆さんお疲れさまでした。

次回(七十七歳、健康に留意して 又四〇会(よろーかい))

圓佛 祐三

八高18回卒

昭和41年卒

「高18回(昭和41年3月卒)同窓会」のご案内

いつしか虫の音がしみじみと聞こえる今日この頃ですが、ご清栄にお過ごしのことと存じます。私たち昭和二十二年(二十三

年)生まれを中心とします一八回卒業生も、学校を巣立って既に四十七年になろうとしております。今年は六十五歳になり、所謂「年金世代」に突入です。我が国の高度成長を担い、消費を牽引し、一つの時代を作り上げてきた私たちにも、黄昏が迫ってきています。このまま、健康と年金のことにみに気を取られながら老いさらばえていくのか、若さを保持しつつ第二の人生に立ち向かっていくのか、思えば分岐点で佇んでいるというのが私たちの現在の立ち位置のように思えます。

そこで、別記の要領で同窓会を開催し、一同集いあつて今後自分たちの取るべき道を見つけ

日時 平成25年1月2日(水)
午後1時開会(12時受付開始)
*記念の集合写真撮影のため、12時までに八代ロイヤルホテルにお出で頂ければ幸いです。
会場 八代ロイヤルホテル
(八代市本町2丁目1-5 電話 0965-34-1111)
会費 8000円
参加申込先 〒866-0043 八代市古城町 2851-1
電話 0965-34-3939
眞木 誠司
締め切り日 平成24年11月30日(金)

あい、愉快な楽しい実りある人生の総仕上げを図ろうと思います。

また、私たちの青春時代に教えを請った先生方にも是非ご参加賜り、人生の先達としてのお考えをお聞かせ頂ければ幸いに存します。

八代高校一八回生同窓会

代表 眞木 誠司



昭和46年卒

還暦同窓会を終えて

一年前から実行委員会を立ち上げて臨んだ甲斐があり、一七〇人を超える参加者を迎え、大盛況の内に還暦同窓会を終え

ることが出来ました。

同窓会を計画するにあたり、地元の実行委員会のメンバーと何度も会議を重ねましたが、最初の頃は意見が纏まらず陰湿なムードになったこともありまして。しかし、この同窓会を間近にする頃には、スタッフ皆が自分の得意分野で力を発揮し、それぞれの力が一つに纏まっていくのを感じました。遠来からの参加者の方々にも喜んでいただき、苦勞が大きかった分、大きな達成感を味わうことが出来ました。

『同級生』が、『かけがえのない親友』となった還暦同窓会でした。

八高 三回卒 山川 敏光



昭和57年卒

絆

平成二十四年一月二日、私たち第三十四回卒業生は、卒業後五回目の同窓会を八代ロイヤルホテルで当時の先生方をお招きして盛大に開催した。私たちは、卒業以来五年ごとに同窓会を開催しているが回を重ねるごとに参加者は少なくなっている。しかし、毎回全国各地から百名を

超す級友が集まり、昔話に花を咲かせ近況を語り合い親交を深めている。世間的には四十八歳

という年齢で、果たすべき責任や役割は重くなり悩みや不安も大きくなってきているが、この会での級友との再会によって、以前の元気や活力を取り戻す機会となっていると感じている。

今後、八代高校の発展並ひに三十四回卒の「絆」が更に堅固になるよう力を合わせて会を盛り上げていきたい。

米村 信浩



平成14年卒

卒業10年後の再会

各々が将来への夢に向かって母校を巣立ったあの日から早十年。

「そろそろ集まらんね」と、同級生たちの多くの声が各地からあがり、十年ぶりの再会を願って同窓会を開くことになりました。卒業時に学年幹事を引き受けた各クラスの仲間と連絡を取り合つことからスタートし、昨年の秋に企画が立ち上がりました。そして、急ではありましたが、今年の一月四日の開催に向け、招待状の作成や発送など役割分

担を決めて取り掛かりました。

当日は東京・大阪など遠方からも懐かしい旧友たちが集い、懐かしい八高時代の思い出話に花を咲かせました。

「もう十年か」「早かよな」

各テーブルでこの一時を懐かしむ皆の様子から、私たちは十年という月日の早さを感じるとともに、一方で

ついこの前まで会っていたかのような不思議な錯覚を感じました。それは、八高生活の日常が友人たちとの充実した日々だったことを証明してくれま

す。

今回、企画から短い期間の開催であったため、恩師の先生方には急なお誘いになってしまい大変失礼致しました。ご多用の中、駆けつけてくださった黒田先生、境先生には改めて感謝申し上げます。

八高で出会った仲間たちとの再会を今後も定期的に催し、お互いの人生の振り返りとなる



きっかけをつくっていただくと

幹事一同、願っております。八

高生、万歳！

松浦 壮宏



**新旧時代の対峙 正義と真理を求め、
全国で吹き荒れた学園紛争の余波の中
長髪問題！貫いた八高の伝統「自治の精神と自由な学風」
そして、新しい時代への息吹 永碇町への新校舎移転！
世界の変化に真正面に立ち向かった八高魂ここにあり！**

出席者(敬称略)

川上正英先生
新垣淑毅先生
原田琢磨先生

後藤 慎哉
(高16回)

一ノ間 孝子
(高17回)

丁畑 正敏
(高17回)

森下 貴美子
(高18回)

滝川 源治
(高18回)

宮崎 美美子
(高19回)

箕田 正一
(高19回)

皆吉 美重子
(高20回)

蓑田 保
(高20回)

守屋 みつえ
(高10回)

岡山 元紀
同窓会会長
(高19回)

司会 (高19回)

岡田 敏代

広報委員

(会長) 今回お集まりいただいた高一六回から二〇回卒の皆様は、戦後のベビーブームの世代であり、八高では、丁度旧校舎から新校舎へ移転する学年の皆さん方です。また、全国的には学園紛争が激しくなり、八高にもその余波が押し寄せていた時代でもありました。そこらを中心にいるんなお話を聞けたら幸いです。本日はよろしく願います。

バンカラ、自由な学風 ユニークな先生方 ちよっぴり大人になった八高生活

(司会) 一九回卒の岡田です。皆さんと同じ世代です。本日は、和気あいあいと楽しくやっていこうと思います。はじめに八高はどんな高校でしたか。

(後藤) 私は、バンカラ風な気質と薦の絡まる校舎にあこがれ、八高に入学しました。体育祭の時は、建設中の新校舎

の足場や枠板を借りて、旧校舎のグラウンドまで担いで運んで行き橋を立てました。八高には、大学教授並みの個性ある素晴らしい先生方がおられましたね。「猫ちゃん、団平ちゃん、メタンガス等」あだ名で先生を呼べた楽しい時代でした。

(一ノ間) 八高に入ると、校舎の屋上やグラウンドの芝生の上でお弁当を食べたり、八代宮に遊びに出たりしていました。体育祭では、夜遅くまで仮装行列の準備をしたり、ちよっぴり大人になった気がしましたね。

(丁畑) 入学試験当日、講堂で日向ぼっこをしながら勉強したところが偶然出たので、合格することができました。一年の時は猫ちゃん、二年の時は団平ちゃんが担任で、素晴らしい先生に巡り合うことができ、高校の先生は凄いなと驚きました。その凄さに圧倒されて、勉強は全然しませんでした。

(森下) 私達が旧校舎最後の卒業生でした。新校舎で最終学年

をという声もありましたが、生徒の意向調査で「なんで遠か所に行かんばんと」という事で、旧校舎に残りました。

(滝川) 二年生の時東京オリンピックがあり、当時、講堂に大きなカラーテレビが据えてあり、皆で、夜遅くまで観戦しました。見つかって、先生に怒られましたね。

(守屋) 八高に入って、素晴らしい先生と巡り合うことができました。特に、古島団平先生はユニークでした。若いころ随分とめて、先生を巡って三人の女性が争っていた話など、どう考えても信じられない話でしたが非常に面白かったです。

(蓑田保) 八高の先生方が個性的だったことは、先輩の話で明らかでしょうが、生徒自身も個性的でした。いわゆる変わった生徒が多かったですね。勉強中ベランダに出て弁当を食べるのはざらでした。自分は三年間無欠席でしたが、まじめに授業を受けた記憶がありません。

真面目に勉強しようとするならば、後ろから弁当カトラや柔道着が飛んできて、危なくて勉強ができません。必然的にベランダに行く機会が多くなりました。屋上に行って、トイレ

ペーパーのロールを投げると、空に竜が舞うようで感動的でしたが、先生に見つかり随分と叩かれた人がいました。朝の出欠が終わった後、バイクに二人乗りし、熊工の運動会の応援を見学に行き、放課後のホームルームには何食わぬ顔をして机についていた人もいました。八代宮に三時間かけて弁当を食べに行ったり、バンカラの校風といつか自由な校風で、よく遊び、全く勉強する雰囲気ではなかったですね。

(川上) 最初の八高赴任の十年間は、大変楽しく教師生活を過ごすことができました。先生方とよく遊びました。試験の日は、大抵昼までで終わりでしたので、昼から宿直室でマージャンをしていました。後で、校長から注意され、学校が終わってから、外でするようにしましたが、遊ぶ時間を作るため、勤務時間は、一所懸命頑張りました。

松江から永碇へ、

新校舎への移転

(司公) 新校舎への移転当時はどうでしたか

(宮崎) 三年生の一年間を新校舎で学びました。運動場が使

えず、体育祭が開かれず、仮装行列が行われなかったのが残念でした。卒業式は、建設中の体育館で行いましたが、床が荒ら仕上げで、隙間から風が入ってきて、ずいぶん寒かったですね。

(養田正) 三年生から新校舎で学びました。体育は毎日グラウンドの石拾いでしたが終了後、校舎が建設中だったので足場をつたって教室に駆け上がる女子が着替えており、「ありゃりゃ」という強烈な思いが残っています。

(皆吉) 入学してしばらくは、薦の絡まる旧校舎で学ぶことができ、感無量でした。新校舎



全校生徒による全面的移転作業
昭和40年9月10日

(旧校舎正門前)



移転式後、校旗と松村宗男校長を先頭に新校舎へ
(昭和40年9月11日)

に移ってからは、昼食後、自転車で実験を伴う授業や体育を受けた後、クラブ活動に参加するために旧校舎に移動しました。あちこち行ったりこち行ったりずいぶん忙しかったと思います。

(守屋) 私達は、入学時から新校舎で学びました。移転式の際は、生物教室の人体の標本模型を恐る恐る担いで運びました。一年次は体育祭がなく、体育の時間は石と草取りだけでした。授業で美術を専攻していたので、工事の足場に貼ってある筈に絵をかくて校内コンクールで優秀賞を頂きました。

(会長) 新校舎になってほとんどの生徒が自転車通学になったと思いますが、いかがでしたか。

(森下) 新校舎移転当初は、駅からバスが出ていましたが、費用が掛かるとのこと、自転車通学に切り替える人が多く

なり、後で、バスの運行がなくなりしました。

(宮崎) 私は、本町三丁目から通っていましたので、自転車通学は認めてもらえませんでした。途中にある友達の家で預かってもらうことができた。こっそり自転車を通っていました。

(後藤) 皆さんうらやましいです。一六回卒は今という単車通学みたいに、自転車で学校に通って来るならば、校門で先生に捕まってしまうよ。

(川上) 新校舎を作るとき、原田先生の提案で「今時の高校は、靴を履いたまま校舎に入らなければ」とのこと、最初は靴を履いたまま、教室に入ることが出来ました。今ある教室の後ろの棚は、初めは下駄箱でした。ところが、当時は道路が舗



旧校舎正門前では代陽小学校の鼓笛隊に送られて、「さようなら、さようなら！」の声を聞きながら。

装されておらず、床が泥だらけになったので、すぐに廃止になりました。

(原田) 鹿児島島のいくつかの学校では、靴を履いたまま教室に入る事ができたので、それを真似たのですが、今考えてみると、あそこは土がシラスなのですぐに靴から落ちるので靴履きが出来たんでしょうね。

(川上) 新校舎では事務室と校長室は二階に設け、車を横付けできるようにハイカラな設計だったが、敷地が狭かったため通路ができず、今のよう階段で登ることになったですね。

(滝川) 新校舎になって困った事が起きた。それは、エスケープ出来ないことでした。旧校舎では、土曜日の四時間目のホームルームの時は、教室を抜け出



松高小学校の生徒連の出迎えを受けて、新校舎へ。
(昭和40年9月11日)

し、友達と通町にある饅頭屋で待ち合わせをして、バスに飛び乗り駅前の映画館まで直行しましたが、新校舎ではそれができなくて残念でした。

〔新垣〕 授業は、新旧の校舎間を自転車通って教えていましたが、八高通りと呼ばれた所は、新開井手があり、住民の方が、鮎を釣っておられたのを覚えています。

〔川上〕 私は昭和三六年から四六年、昭和六〇年から平成四年までの二回八高に在職していました。

最初の就任の時は、八高生も団塊の世代で、当初の八組から九組、一〇組、一一組と増設されていきました。クラス定員は五六名が認められており約六〇〇名が通っていたと思います。

ですから教室はぎゅうぎゅう詰めで、最前列は、教壇の横になり机を横にして授業を聞いていました。

頑張ったクラブ活動 今も続く仲間との出会い

〔司会〕 クラブ活動はどうでしたか。

〔川上〕 一年生から見ると、先

輩方が随分と大人に見えました。正直恐ろしかったです。クラブはバレー部に入りましたが、先輩からは、「授業には出んでも、クラブには絶対来んばんどー」と言われ、そうしました。

〔森下〕 私は、テニスでした。毎日、真っ黒になって練習していました。先輩方が随分と大人に見え、ラグビーやサッカー部の先輩は、髪をリーゼントに決めてかっこよかったです。でも、部室は、いつもタバコの臭いがして、非常にきたなかったですね。

〔滝川〕 「美術部は裸婦が描ける」と聞いたので、有名な正木先生が顧問の美術部に入りました。

しかし、動機が不純だったのと、中学時代の先輩方の熱心な勧誘で、途中からバレー部に変わりました。当時は、グラウンドにコートがあったので、水を撒いたり、ローラーを引いたりして、カチンカチンのコートを作りました。表面が非常に硬くて、転んでよくけがをしたものです。傷につけるヨードチンキはヒリヒリと実に痛かったです。

〔皆吉〕 東京オリンピックで女子バレーが金メダルを取り、影

響を受け、みんなで励んで練習をしましたね。クラブは体操部で新校舎の体育館で練習していました。柔道部の横での練習です。大変緊張しました。

〔守屋〕 同級生の男子は、三年間丸坊主で、中学生の延長という感じでしたが、先輩方は長髪でかっこよかったですね。特に、バスケット部の先輩に憧れ、女子の有志で、女子のバスケット同好会を作りました。いろんなところと試合しましたが、勝ったためしがありません。

それでも、憧れの先輩の隣で練習できて、胸がときめきました。

〔新垣〕 私は、昭和三年から昭和二六年と昭和三七年から昭和四六年までの二回八高で教えました。

昭和三七年の二回目の赴任の時には、野球部の部長を担当しましたが、当時の部員は五六名で、テニス部や柔道部から助っ人を頼み、試合に出ていました。もちろんぼろ負けでした。

憧れの東京へ！ 修学旅行は二年生

〔司会〕 修学旅行はどうでしたか。

〔滝川〕 私達の修学旅行は二年次でしたが、東京オリンピックのせいで一か月遅れての出発でした。予定してあった日光は、すでに冬景色だったので行かず、東京にもう一泊泊まることになりました。大学生の先輩方が案内してくれて、東京の街に憧れてしまい、東京の大学に進学しようと思えました。

〔川上〕 修学旅行中の八高生が、学園紛争中の明治大学に行き、「ストライキと学園封鎖のやり方を教えてくれ」と尋ねた生徒もいたそうです。

〔滝川〕 私は当時明大生でしたが「熊本の八代に、とんでもない高校生がいる」と、その話は有名でした。

ウィングカラーから セーラー服へ

〔司会〕 昭和四〇年に女子の制服が変わりましたが、どうでしたか。

〔義田正〕 当時の先生方は、生徒の自主性を重んじる方が多く、勉強は生徒任せで、たいていは遊んでいましたが、中には、修学旅行中に旺文社のラジオ講座や赤尾の豆単を持ってきて熱心に勉強していた頑張り屋もいました。修学旅行は汽車旅行で、網棚で寝ていて窓のガラスを割った人もいました。今思えば、適当に勉強もし、クラブもしながら学園生活を楽し

〔森下〕 ウィングカラーの制服に憧れて入学したが、三年次にセーラー服が制服として導入され、生徒への意向調査の結果三年生は着用せず、「一、二年生が着ることになりました。ウィングカラーの制服は生地が木綿で、毎日アイロンをピシッとかけて極めていたが、のちに生



川上 正英先生



新垣 淑毅先生



原田 琢磨先生



ウィングカラーからセラー服へ

地がテトロンになって、ダラーンとしたものになったので、結果として、セラー服になったのはよかったと思います。

(皆吉) 私も、ウィングカラーの制服に慣れて入学したが、一年生からセラー服を着なければならなかったのが、非常に残念でした。

(原田) ウィングカラーの制服がセラー服に変わった理由は、①ウィングカラーは毎日のアイロンかけが大変②襟周りが暑苦しい③生地が木綿からテトロンに変わったので襟が立たなくなった。そして何より



後藤 慎哉さん



一ノ岡孝子さん



丁畑 正敏さん

も④女の先生がそう決めた。女の先生が決めたことに男が逆らうことは許されませんでした。

(会長) 原田先生は、生徒の服装に厳しく、よく授業中に注意されていました。

(原田) そぎゃんこつありませんか。(笑)

学園紛争の余波の中 取り組んだ長髪問題、 貫いた自治の精神！

(司会) 当時は、東大闘争にみられるように全国的な学生運動の高まりの中に八高もあったと思います。長髪を巡る問題は、紆余曲折を経ながら、私たちの時代の代表的な事柄でした。自分たちの主義主張を学校側と真正面から話し合ったのは、前にも後にもこの世代だったと思います。皆さん方はどうでしたか。

(新垣) 昭和三十七年の二回目の赴任の時には、全国的に学園紛

争が盛んで、卒業式の日にはヘルメットの学生がビラをまき、それに集まる集団と、剣道の竹刀に、日章旗を掲げ職員室の廊下を行進し、屋上で集会を開く集団があり、八高生には左翼も右翼もあり氣勢を上げていました。ですから、卒業式の前日には、生活指導の先生方と物理準備室に寝泊まり、警戒していました。また、八代警察署の公安の方も前日から警備についていました。

(原田) 八高の卒業式の時には、何かが起こるぞということで、講堂の後ろにはテレビなどの報道陣が待ち構えていましたね。

(新垣) 八高生がメーデーに参加するという情報が入り、慌てて集合場所に行き、説得して作業服を着替えさせ、帰したこともありました。騒然としていた時代でした。

(会長) 前回の座談会に登場された昭和三十五年、三十八年卒の時代が、文武両道の面で最高の学年と言われていましたが、その後衰退してゆき、どうやら昭和四十年頃が、大学進学の中で、最低だったといわれています。このことに、学校側が大変な危機感を抱き、生徒に喝を入れようと長髪禁止を行ったとされ



森下 貴美子さん



滝川 源治さん



宮崎 英美子さん

ています。一九回卒で生徒会長をされていた野口さんが、八高百年史の中で、当時の長髪問題に触れ、「文武両道に陰りが見え始めた八代高校が、必死になって取った措置」と寄稿されています。長髪禁止は、表向きには非行防止でしたが、要は、八高の沈滞ムードに喝を入れるためのものだったんですね。長髪禁止は、昭和四〇年四月に始まり、昭和四四年六月に解除されました。昭和四〇年五月には三年生の有志を中心に「八代高校をよくする会」が結成され、「城南の雄を取り戻そう！」と檄文が貼り撒かれたこともありました。当時は、城南の雄という状態ではなかったんですね。

二七・二一名でした。これも、この学年の頃が学力の面で最低でした。また、この時代は八高が大変荒れていた時代でした。

(滝川) 生徒会の執行部をしていた二年生の時、「長髪と下駄ばき禁止」反対のための署名活動を校門の前で行いました。それを持って、校長と二時間余り話し合いをしました。結果、下駄ばきの禁止はそのままでしたが、私達の学年は卒業するまで長髪でいることが認められました。

(守屋) 自治会長に同級のW君が立候補し、「丸坊主をやめさせ、長髪に戻そう」と頑張っていました。

(会長) どうして皆、長髪禁止に反対したんですか。

(宮崎) もともと八高は自由な校風でしたので、長髪禁止という強制には、皆が馴染めなかったんです。

(森下) 悪いことをして、謹慎や停学処分を受けた者が、罰として丸坊主というイメージが



蓼田 正一さん



皆吉美重子さん



蓼田 保さん

強かったからです。

(後藤) 一六回卒は丸坊主なんか別に問題にしませんでした。何せ、修学旅行に行く時から髪の毛を伸ばし始め、革靴を履き始めた時代ですから。むしろ、下駄ばき禁止というのがつらかった。

(二ノ間) それでも水虫ができたといえ、下駄ばきが許されましたね。(笑い)

(後藤) 当時は、生徒集会が面白かった。また、学園紛争なんかなかった時代でしたが、集会で上級生がヤジを飛ばすのが面白かったですね。漫才のこたつたですよ。勉強もあまりせんだった。私たちの頃から学力も下がり始めた。

(蓼田保) 当時は、生徒自治会の活動が活発で、生徒による自治に重きが置かれていたと思います。

一つ上の先輩に〇自治会長がおられ長髪でかつこよく、よか男で声もきれいで男としても憧れの的でした。私たちの学年は校則で三年間丸坊主で

した。先輩方は長髪なのに入学時から丸坊主。私たちが卒業の年入学した生徒はまた長髪でした。「魔の三年間」と言われた不幸な学年でした。生徒会活動が活発で、部活動の予算配分は生徒同士でやっていました。けんか腰でした。そう言え

ば、大学合格率で玉名高に迫り越され、先生方から大目玉を食らってました。

(司会) 私達の学年から新校舎での八高生活が始まりました。新校舎の一期生、二期生です。良きにしろ悪しきにしろ新しい八高を築いた学年でもあると思います。最後に同窓生や八高生に何か一言お願いします。

(皆吉) 私は、クラブ活動を生懸命頑張りました。八高を通して知り合った素敵な仲間たち。

今も交流が続いています。その八高に通えてよかったと思っています

(蓼田正) 八高時代は、クラス

やクラブ以外では、同級生の交流はあまりなかったが、今、仲間と集いたいという気持ちが強くなって同級生たちと一緒に「道の会」を作りました。昨年は「八高三文化展」を開催したら、先輩や後輩がたくさん来てくれた。これからも、八高の後輩たちや地域に貢献していく取り組みをしたいとみんなで話しています。

(滝川) 私たちの学年が、六五歳になるのを記念して来年の一月二日同窓会を開こうと、みんなで準備をしています。みんな仲がよいですよ。例えば「扶美ちゃん」というようにみんな名前をちゃん付で呼び合っています。今、孫と一緒に英語教室に通っています。六五歳になりましたが、八高で身に付けた学ぶことの楽しさを大事にしています。

(宮崎) 八高三年間、いい先生と友達に恵まれました。大事な青春時代に、八高に守られて育ったなあと思っています。

(森下) 現在校区で、いろんな団体の役員をしています。八高で学んだことが基礎となり、いろんな形で貢献できるようになったと考えています。八高の三年間は私の一番の思い出です。

(下畑) 私達は一学年九クラス四五〇人でしたので、正直、クラスやクラブ以外の人たちとの交流は少なかったです。ところが、卒業したら、先輩や後輩、それに先生方とお会いする機会が多くなり、皆仲良しになりました。八代高校があったから、たくさんのお会いができました。八高の同窓生は、いろんな分野でいろんな仕事をしてるんですね。人材に恵まれた層の厚い八高に改めて感謝しています。

(後藤) 学校の行事や、ユニークな先生方に巡り合えた八高時代は、とても楽しかったですね。

高校の教師になり、子供たちに、私のような楽しい高校生活を送ってほしいと一番に考えてきました。しかし、現在の高校生は、自らの自治で学校生活で秩序を保てなくなっているのが現状です。八高生の皆さん、是非、本来ある自治の精神を生かして、もっともつと伸びていつてほしいと思います。八高

生には、十分その能力があることに自信を持っていたかたと思います。

(原田) 高校時代に英語で赤点を取った教え子、大学に進学して九〇点を取って、喜んで私を訪ねてきました。八高生は、本来素晴らしい能力を持っているはず。そのことを大事にして、これからも生きていくって欲しいと思います。

(新垣) 八高で教えていた時代、生徒指導など、大変苦労しました。でも、いろんな問題の中で、いつも生徒と教師が一緒になって考え、解決のため頑張ってきました。良い思い出です。

(司会) 皆さんのいろんな思い出話を聞くことができ、改めて、八高の素晴らしさを知ることができ、皆さんの勇気を貰った気がします。本日は、お忙しい中、長時間にわたりありがとうございました。



守屋みつえさん



岡山 元紀さん



岡田 敏代さん

母校だより

中高一貫教育研究推進部長 松田伸也

本校生の活躍

中高一貫教育校になって四年目を迎えた今年、併設している八代中学の卒業生が八代高校に入学してきました。

今年の高校一年生は、八代中学校からの入学生八〇名と、地域の中学校からの入学生一六八名が互いに切磋琢磨しあいながら、仲良く充実した生活を送っています。

本校は、中学一年生から高校三年生までの計六学年が同じ学舎で集う学校となり、毎日活気にあふれています。

八代高校には三五の部活動・同好会があり、文武両道を目標に日々の活動に取り組んでいます。

今年の高校総体では、陸上競技部・水泳部・空手道部などが上位入賞を果たしました。中でも、陸上競技部の佐々木君、吉川君は全国高校総体だけでなく、国体に県代表として出場するなど、顕著な成績を収めています。



中高合同の入学式の様子



高校総体の1シーン



NHK 全国放送コンテスト出場

文化部でも、全国総合文化祭に放送部・書道部が出品し、吟詠剣詩部部門にも出場しました。

また、放送部はNHK全国放送コンテストで入賞するなどの活躍を見せています。

また、八代中学校においても、様々な分野で活躍しています。

日本学生科学賞に出品した現三年生の太田君の研究「見えた！変光星周辺ガス雲の正体」は、全国の中央審査で入選二等に選出されました。

また、青少年読書感想文コンクールでは、現三年生の井上さんが全国で入選を獲得しています。

これからも文武両道を目標に活躍する本校生に、応援を

よろしくお願いいたします。

全国に羽ばたく八高生

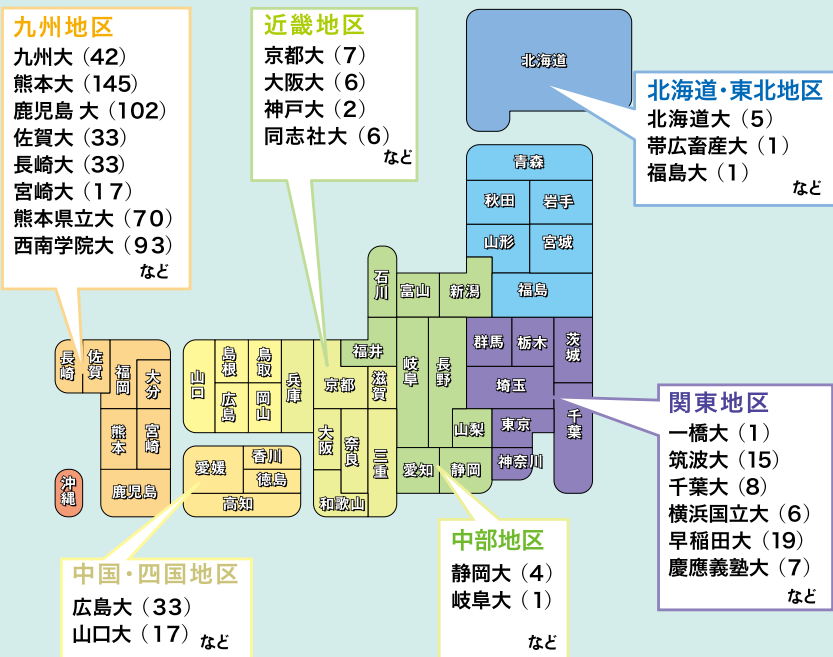
八高生の九九％は進学を志望しており、八九％は国公立大学への進学を志望しています。中学生は八高生の頑張りを見、そして八高三年生は前年度卒業された先輩方の頑張りを出し、日々

授業等の学習に励んでいます。

左図は、過去五年間の大学合格実績です。多くの八高生が文武両道を目標に日々頑張る進路目標を実現し、全国各地で活躍しています。

これからも各地の八高同窓会で八高卒業生がお世話になるかと思えます。その節はなにとぞよろしくお願い申し上げます。

八高生過去5年間の合格状況 (抜粋) () は合格者数



八高史

新校歌「道」の思い出

小林 章（高12回）

私は、昭和三十五年卒業後、大学受験と父親の転勤で東京に生活に移して以来、八代とはすっかり無縁状態になってしまいました。

「歳を取ると故郷を懐かしく思い出す。」

そんな時期にちよつとした事件がありました。今年一月五日、日本を代表する作曲家の一人である林光氏が亡くなられた旨の訃報、まだ八一歳で御活躍中と承知している最中の報道には心底驚きました。

私は昭和三十二年に入学しましたが、早々にやらされたことに、当時出来たての新校歌「道」を何度となく練習し（させられ）て、文化祭当日、全校発表会が

開催されたことを強烈に憶えています。当然のことながら今でも、そのメロディや歌詞、そして作詞耕治人氏、作曲林光両氏のお名前がしっかりと頭の中に叩き込まれております。

更に、昨年十二月に発行された同窓会報の座談会記事で新校歌のことが話題になり、作曲家林光氏は耕治人氏の知人であったことを初めて知りました。

私は一浪して慶応義塾大学に進学しましたが、四年間のクラブ活動の場として音楽を選ぶ「混声合唱団楽友会」に所属しました。その合唱団の前身である音楽愛好会創立のメンバーの一人が林光氏でした。現在、千名を超えるOB会名簿の会友とし

て、小林亜星、若杉弘氏らと並んで林光氏のお名前を確認しましたが、大先輩Ⅱ八代高校新校歌作曲者とはなかなか結びつきませんでした。

そんな中、OB合唱団演奏会で林光作品を採り上げることはありましたが、初めて林光氏と接したのは平成十三年三月、合唱団創立五〇周年記念演奏会をサントリーホールで開催した際、一ステージを林光「日本抒情歌曲集」より、御本人の指揮・ピアノで演奏したときです。本番を含めて五回程の機会がありましたが、直接お話しする切っ掛けを持てませんでした。かえすがえす残念でなりません。

機会を捉えて、身近な先輩方に八代出身の私が、校歌とそれに纏わる林光氏の関係を披露すると、皆さん一様に驚きの声を上げられる状況です。

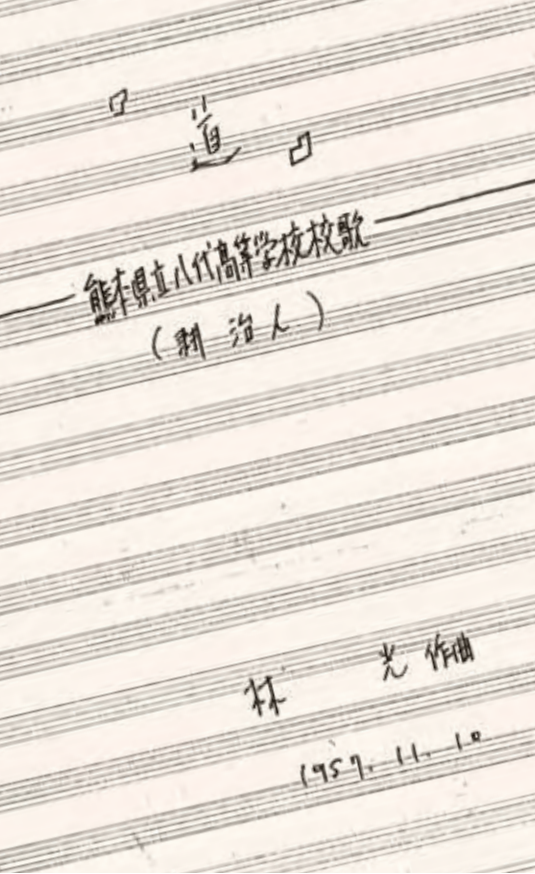
振り返りますと、『新校歌「道」が制定されて半世紀を超える年月が経過して、なれどその校歌は脈々と歌い継がれて、当時新進気鋭の作曲家が日本を代表する作曲家に、その方がお亡くなりになった、そしてその歴史の一つの中に私もいた』で、ペンを執った次第です。

『八代海・球磨川そして辛苦を

越えて進む未来への希望の道。我が心の故郷の母校八代高校が、熊本県内初の中高一貫教育校になった。』ことを私は最近知りました。

我が母校が益々発展されんことを祈つてやみません。

林 光さん直筆の譜面
1957.11.10 の日付が書いてあります。



頑張ってます！

〜高5回卒〜

本田 大三郎

ロンドンに咲いた撫子の花

ロンドンオリンピックでは、たくさんの撫子たちが活躍しました。中でも印象に残ったのは、三人の撫子の戦いです。

まず一人目は柔道四十八キロ級に出場し、準決勝で敗退した福見友子。彼女は無敵の女王谷亮子を破った唯一の日本選手です。しかし、谷を破ったにもかかわらず、前回の北京五輪に出場でできませんでした。準決勝で敗れた後に流した涙には、もしあのとき北京で戦えたらという、旬の時期を逸して出場した、無念の思いもあったのではないのでしょうか。

二人目は体操の田中理恵。体操一家で育った理恵は、兄と弟が実績を重ねていく中、その後姿を眺める立場でした。しかし一念発起。体操界では異例の二十五歳という年齢でオリンピックに出場を果たし、三兄弟そろっての出場という快挙を成し遂げました。彼女を支えたのは兄弟の熱い絆だったと思います。

三人目は、三十一歳にして初めてオリンピックに出たレスリングの小原日登美。四十八キロ級で見事金メダルを獲得しマツトの上で号泣しましたが、そこに至るまでの道のりは生半可なものではありませんでした。

ロンドンで咲いた撫子の花、日本人の心に勇気と希望を与えてくれました。

(以下、広報委員会記す。本田氏は八高を卒業後、自衛隊に入隊し自衛隊体育学校でハンドボールやラグビーの指導にあたる。その後、カヌー競技に取り組み、日本代表チーム主将として東京オリンピックを初め、世界選手権に出場。

氏の長男多聞は、レスリングでロサンゼルス、ソウル、バルセロナと三大会連続でオリンピック出場。サッカーの本田圭佑は兄の孫である。圭佑や多聞に指南した練習日誌『本田ノート』はマスコミで大きな話題を呼んだ。

ゲタのあだ名で親しまれた小田俊一先生が『白鷺八十年記念誌』に書かれた記事「私は八高で、昭和二十四年からハンドボールに関係した。今の八代東高校

の大楠の下で、軍隊時の編上靴の底に鋌を打ってスパイクの代用にし、血の小便が出る程の練習をして、二十六年に九州大会へ出場した。

この時のチームには、松永・江上・本田と優秀選手がいて、その中でも本田大三郎選手のスーパーマン的活躍は目を見張るものがあり、後日、氏のオリンピック選手としての基礎もこの時培ったのではなからうかと思っている。)(ホンダカヌースクール代表)

〜高20回卒〜

折木 良一

自衛官として勤務して



「感謝」の一言である。昭和四十三年に八高を卒業

し、防衛大生そして自衛官として約四十四年の勤務を一月末に終えた。先日、ある法事でお寺に掲げられた「生かされて、生き抜く」という標語を見ながら、改めて自分の半生を顧み、家族、親兄弟は勿論、全国の多くの関係者に支えられ、生かされて大過なく勤務を全うできたことに感謝した

と思う。防衛省も陸海空自衛隊の運用を一元的に統合運用するという体制になって七十年目になった。三年前からその統合運用の長たる統合幕僚長を拝命し、軍事専門家として防衛大臣を補佐し、命令執行するという立場を与えられ最後の職務を終えることができた。

時代は大きく変化した。特に平成の時代に入り、政治、経済、社会構造、情報システム等の変化は著しいものがある。また、近年温暖化に伴う気候変動の影響も見受けられるようになった。一言でいえば全てにわたり不透明、不確実の時代でもある。

このような時代に自衛隊の任務も国民の期待に比例し多様になった。海外での活動に参加した自衛官はすでに延べ四万人を超え、現在ハイチ、東チモール、ゴラン高原、南スーダンそしてアデン湾での海賊対処等海外に派遣されている自衛官は約一、三〇〇人にのぼる。国内では、毎年約五〇〇件の災害派遣を実施している。昨年は不幸な未曾有の東日本大震災が発生し、大震災・津波災害対応、そして福島原発対応という二正面にわたり、過去最大の十万七千

人体制で人命救助、行方不明者の捜索、原発への注水活動等を実施した。一方、日本周辺の安全保障環境も変化している。金正恩体制に移行した北朝鮮は弾道ミサイル、核開発を継続し大きな不安要因であり、中国は経済成長に伴い二十数年来の軍事費の大幅増加と軍事力の近代化、そして東シナ海、太平洋における活動を活発化している。自衛隊の本来の任務である情報収集・偵察活動を含む防衛・警備もおそろかにできない時代である。

自衛官は国民の安全と財産を守るため、危機に際して命をかけて任務を遂行しなければならない。その原点は使命観である。そしてその心の支えは国民の理解と支援であり、是非、機会があれば「頑張れ、有難う」の声をかけていただければ幸いに思う。

私も六月に大臣補佐官の職を拝命した。引き続き防衛省の職務に携わることになるが、それを終えたのちも一生のテーマとして日本の安全保障に何らかの形で微力ながら尽力していきたいと思っている。

(防衛大臣補佐官)

日奈久ゆめ倉庫 落成



観光交流施設「日奈久ゆめ倉庫」が、今年の4月11日、日奈久中町にオープンしました。大正2年に建設され米券倉庫として利用されていた旧JA倉庫を改築したもので、鉄骨造平屋建て、延べ床面積350㎡。特徴的なトラス梁やなまこ壁などを一部再利用しています。イベントホール、舞台、交流スペースなどがあり、観光案内所も設けられています。イベントホールでは、「日奈久温泉スリッパ卓球大会」や日奈久出身のシンガーソングレスラー・ハヤブサなどによる音楽祭、絵手紙などの展示会、山頭火シンポジウム後の交流会などが行われ、屋外では、ストリートバスケットボール大会などが催されています。

荒瀬ダム撤去はじまる



全国初となる本格的なコンクリートダムの撤去工事が、今年の9月1日にスタート。6年後の2017年度末までに完了する予定です。水力発電専用の荒瀬ダムは、県営最初の発電所として55年間、県内の電力供給と県南振興に貢献してきましたが、一方で、砂の堆積と環境への負荷が課題となっていました。8枚あるゲート（水門）のうち、最も右岸にある1枚を撤去することから始まり、その後、ダムえん堤の下部に穴を開けて水位低下設備を設置する、という工程で進んでいきます。河川にかかわる工事は、鮎の遡上期間と降水量の多い時期を避け、原則として毎年11月から3月に実施されます。

活気づく妙見祭



▲大観衆の注目を浴びた菊慈童

昨年3月、八代妙見祭の神幸行事が国の重要無形民俗文化財に。9月には、青森市で開催された「地域伝統芸能全国フェスティバル〜日本の祭りinあおもり2011〜」で、八代妙見祭保存振興会が「地域伝統芸能大賞（活用賞）」を受賞しました。11月のお祭り当日には、笠鉾の菊慈童を半世紀ぶりに人が担いで砥崎の河原を回り、大歓声が起こりました。市職員の宮崎博明さんが「担ぐ」と言い出し、力のある若者を集めて練習。みごとに担ぎ終わり、万歳をする12人の若者たちに、観客は拍手喝采でした。

今年は、絵巻などに描かれた流鏑馬の武者が加わる予定で、かつての妙見祭の出し物がほぼ完全にそろうこととなります。（流鏑馬が11月18日に第一中学校グラウンドで行われる予定）

八代清流高校 開校



▶真新しい校旗の授与を見守る新生たち

氷川高校と八代南高校が再編・統合され、「熊本県立八代清流高等学校」が今年の4月に開校。9日、開校式と入学式が行われ、175人の新生が新たな一歩を踏み出しました。八代南高校の校地を併用し、八代清流高校の1年生は八代南高校の2・3年生とともに学校生活を送っています。県内初の進学重視型単位制の普通高校で、全日制課程の普通科5クラス。また、2学期制（前期・後期）が取り入れられました。校章は、清流球磨川と市の鳥「カワセミ」がモチーフになっています。校歌は、八代市出身の歌手・八代亜紀さんが作詞・作曲。郷土愛と新たな歴史を踏み出すさとの後輩たちへの応援のメッセージが込められています。

笑顔 de あいさつ日本一運動

▶みんなで、あいさつ体操



「元気で明るく心豊かなまちをめざして、『笑顔 de あいさつ日本一運動』が全市的に展開されています。今年の8月1日には、やつしろハーモニーホールでオープニングイベントが開催され、公募の中から選定されたシンボルマークやキャッチフレーズの表彰、県内在住のシンガー・ソングライター際田まみさん作詞作曲の「やつしろあいさつのうた」と歌に合わせたリズムカルな「やつしろあいさつ体操」の披露が行われました。

約500人の参加者を前に「あいさつで幸せな住み良い八代にしましょう」と福島和敏市長が宣言。県のPRキャラクター「くまモン」も応援に駆けつけ、子どもたちと一緒に体操をするなど、イベントを盛り上げました。

ねんりんピック開催



▲ねんりんを感じさせない身のこなし

昨年10月、第24回全国健康福祉祭くまもと大会「ねんりんピック2011（ふれ愛）熊本」が県内各地で開催されました。八代市では、16日と17日に、日奈久ドリームランド「シー・湯・遊」でゲートボール交流大会が、市総合体育館でソフトバレーボール交流大会が行われ、全国から集った約2400人の選手たちが熱戦を繰り広げました。

本町アーケードと日奈久温泉街での歓迎イベントや、大会会場でふるまわれた「生姜そうめん汁」「トマト団子汁」などの『おもてなし』に皆さん満足そうでした。

「やつしろの風」 会員募集



市では、八代市の地域情報発信誌「やつしろの風」（無料）を年3回発行します（今年度は2回発行予定）。

八代の旬な情報を、八代出身の方を始め、広く多くの方に知っていただき、八代を応援していただくもので、現在、会員を募集しています。

登録料、発送料も無料です。登録内容は氏名、住所、電話番号で、毎号を送付します。

なお、昨年度、登録された方は、登録の必要はありません。（今年度から無料での送付となりました。）

連絡先

八代市役所 八代ブランド営業総室
TEL 0965 (33) 8780 (直通)
FAX 0965 (32) 8944 (代表)
E-mail : ken-igt@city.yatsushiro.lg.jp

特産トマトで新メニュー新商品



▲トマト加工品の一部

日本一の冬トマトの産地・八代平野。その「八」と「平」からネーミングされた「はちべえトマト」を使った家庭料理コンテストや加工品開発、イベント企画などが、盛んに行われています。

昨年11月に行われた「はちべえトマト料理コンテスト」には、学生、アマ、プロの3部門に56点の応募があり、ホテル熊本テルサ総支配人の土山憲幸さんなどの審査で、「人参とトマトの味噌カレー」や「トマトステーキ」などが各部門のグランプリに選ばれました。

加工品では、旨みが濃縮された「ドライトマト」や添加物ゼロの「トマトケチャップ」、八代農業高校生が開発に関わった「ドライハヤシ」、「はちべえトマト大福」などのスイーツ、とまと焼酎などが登場しています。

年明けには、トマトをテーマにしたイベント「第1回やつしろTOMATOフェスタ」が開催される予定です。

個人情報の取り扱いと保護について

(八代高等学校同窓会個人情報保護基本方針)

1. 八代高等学校同窓会における個人情報の定義

個人情報とは、個人を識別できる情報で、氏名、住所、電話番号、勤務先・在学名、勤務先電話番号、最終学歴等の情報を指します。

また、これらの情報のみでは識別できなくとも、複数の情報を組み合わせることにより個人を識別できる情報も含まれます。

2. 個人情報をご提供いただく場合について

八代高等学校同窓会で個人情報をご提供いただくのは、以下の場合となります。

- (1) 同窓会事務局から同窓会会員へ直接依頼する場合
- (2) 同窓生や家族から同窓会事務局に間接的にご連絡いただく場合
- (3) 同窓会会員から同窓会事務局に直接ご連絡いただく場合

3. 個人情報の管理について

八代高等学校同窓会では、個人情報を正確かつ最新の状態に保ち、不正アクセス・紛失・破壊・改ざん・漏洩または再提供（「5. 第三者への情報提供について」に記載する場合を除きます）などの無いように、適切な管理を実施いたします。

4. 個人情報の利用目的について

ご提供いただいた情報は秘密扱いとし、同窓会会員の管理、および同窓会名簿の発行を含む同窓会の運営に役立てる目的のみに使用します。

5. 第三者への情報提供について

八代高等学校同窓会では、ご本人の同意を得た場合以外は、同窓会会員以外の第三者に提供を行いません。

ただし、警察や裁判所等の公的機関から法律に基づく手続きにおいて照会を受けた等法令に基づく場合や、会員の行為によって同窓会会則等に反し同窓会の権利や財産等を保護するため必要と認められる場合、および人の生命・身体・財産等に対する緊急の必要性がある場合は除きます。

6. 個人情報管理責任者の配置について

個人情報を取り扱う責任者を置き、適切な管理を行います。

7. 法令等の遵守・個人情報保護方針の改定

八代高等学校同窓会では、日本国における法令等に従った個人情報の管理、利用を行います。

八代高等学校同窓会では、日本国における法令等の変更に合わせるため、個人情報の保護をより確かなものとするため、またはその他の理由により、個人情報保護方針を改定させていただいておりますので、定期的に個人情報保護方針のご確認をしていただきますようお願いいたします。

平成24年8月25日
熊本県立八代高等学校同窓会

なお、可能な限り、適切かつ迅速な処理をするよう努めますので、個人情報に関する開示の申し出、苦情、相談等は事務局までご連絡ください。

八代高等学校同窓会事務局（八代高等学校内）

TEL0965-33-4138 FAX0965-35-8463

連絡用メールアドレス 85jimukyoku@hachiko-dosokai.com

ふるさと納税を活用して 母校を応援してください！

■ふるさと納税は、一定の限度内でふるさとの自治体に寄附をされると、所得税と県民税が軽減され、実質2千円の負担でふるさとを応援できる制度です。

■熊本県のふるさと納税「夢教育応援分」を利用すると、あなたの寄附が母校に役立てられ、税控除も受けられます。

■インターネットで簡単に、お申し込みやクレジットカードでの支払い手続きができます！

■県へ10,000円以上寄附された方には、県産品等の感謝の品が送られます！

詳しくは「熊本県ホームページ」をご覧ください

ふるさと納税 熊本県

検索

お問い合わせ先
熊本県税務課 tel. 096-333-2098

平成24年度同窓会行事予定（H24.4.1～H25.3.31）

平成24年(2012)

- 5月7日(月) 第1回広報委員会
- 5月10日(休) 第1回正副会長会
- 6月1日(金) 第2回正副会長会
- 6月2日(土) 関西同窓会総会
- 6月3日(日) 岡山支部総会
- 6月9日(土) 会計監査
- 6月23日(土) 八代高校教育振興基金運営委員会
理事会 総会議案審議（予算案を含む）
- 8月3日(金) 第3回正副会長会
- 8月25日(土) 同窓会総会 八代ロイヤルホテル 高30回担当
- 9月1日(土) 広島県同窓会設立総会
- 9月8日(土) 関東地区同窓会総会
- 9月8日(土) 山口県同窓会総会
- 10月12日(金) 第4回正副会長会
- 10月27日(土) 熊本市支部同窓会総会
- 10月31日(水) 同窓会報「道」第4号発行
- 11月23日(水) 妙見宮大祭 花馬奉納
- 12月7日(金) 第5回正副会長会

平成25年(2013)

- 2月15日(金) 第6回正副会長会
- 2月28日(休) 同窓会入会式 平成24年度卒業生（高65回）

平成23年度八代高校同窓会会計決算書

(1) 収入の部 (単位: 円)

費 目	予算額(A)	決算額(B)	差異(A-B)	摘 要
繰 越 金	24,864,621	24,864,621	0	平成22年度より繰越
年 会 費	5,000,000	5,626,000	△626,000	2,656人分
入 会 費	1,630,000	1,629,350	650	5,000×326名分(うち中学80名) 徴収漏れ650円(中途転校)
雑 収 入	105,379	135,262	△29,883	名簿代・寄付・預金利息
合 計	31,600,000	32,255,233	△655,233	

(2) 支出の部

費 目	予算額(A)	決算額(B)	差異(A-B)	摘 要
会 議 費	400,000	56,910	343,090	同窓会座談会会場費・会議諸経費
印 刷 費	200,000	110,125	89,875	総会案内状
役 務 費	800,000	625,312	174,688	郵便・電話・広告・振込手数料・HP管理費
広 報 費	4,000,000	3,809,218	190,782	会報発行費
備品消耗品費	200,000	71,698	128,302	用紙代・プリンターインク代
慶 弔 費	250,000	171,291	78,709	香典・電報代・記念品代
人 件 費	800,000	800,000	0	事務局手当
新入会員歓迎費	300,000	266,337	33,663	卒業証書入れ丸筒代・校歌CD代
旅 費	700,000	596,365	103,635	支部地区同窓会出席旅費
雑 費	500,000	302,753	197,247	花馬補助等
積 立 金	1,000,000	1,000,000	0	次回周年事業費(特別会計へ)
予 備 費	22,450,000	0	22,450,000	
合 計	31,600,000	7,810,009	23,789,991	

(3) 収支決算の部

収入決算額	支出決算額	残 高	摘 要
32,255,233	7,810,009	24,445,224	平成24年度へ繰越し

(4) 金銭管理状況

普通預金 九州労働金庫	798,365	年会費振込金額	人 数	総 金 額
普通預金 肥後銀行2口	3,985,370	2,000円	2,604名	5,208,000円
振替口座 ゆうちょ銀行	761,800	4,000円	17名	68,000円
定期預金 九州労働金庫4口	15,054,317	10,000円	35名	350,000円
定期預金 熊本県信用組合	3,845,372	合 計	2,656名	5,626,000円
計 24,445,224				

平成24年度八代高校同窓会会計予算書

(1) 収入の部 (単位: 円)

費 目	前年度予算額(A)	本年度予算額(B)	増減額(A-B)	摘 要
繰 越 金	24,864,621	24,445,224	419,397	平成23年度より繰越
年 会 費	5,000,000	5,000,000	0	2,000円×2,500人
入 会 費	1,630,000	1,240,000	390,000	5,000×248名分(うち中学80名)
雑 収 入	105,379	114,776	△9,397	名簿代・寄付・預金利息
合 計	31,600,000	30,800,000	800,000	

(2) 支出の部

費 目	前年度予算額(A)	本年度予算額(B)	増減額(A-B)	摘 要
会 議 費	400,000	400,000	0	会議諸経費
印 刷 費	200,000	200,000	0	総会案内状
役 務 費	800,000	800,000	0	郵便・電話・広告・振込手数料・HP管理費
広 報 費	4,000,000	4,000,000	0	会報発行費
備品消耗品費	200,000	200,000	0	用紙代・プリンターインク代
慶 弔 費	250,000	250,000	0	香典・電報代・記念品代
人 件 費	800,000	800,000	0	事務局手当
新入会員歓迎費	300,000	300,000	0	卒業証書入れ丸筒代・校歌CD代
旅 費	700,000	700,000	0	支部地区同窓会出席旅費
雑 費	500,000	500,000	0	花馬補助等
積 立 金	1,000,000	1,000,000	0	次回周年事業費(特別会計へ)
予 備 費	22,450,000	21,650,000	800,000	
合 計	31,600,000	30,800,000	800,000	

◆各支部・地区同窓会連絡先のご案内

- 八代高校関東地区同窓会 会長:守屋 充男(高10回) 事務局長:中村 静雄(高19回)
〒103-0004
東京都中央区東日本橋1丁目6番10号 K・Kビル5階 中村会計事務所
TEL03-3864-6951 FAX03-3864-6957
定例総会:毎年9月の土曜日、東京都内のホテルで開催
- 八代高校関西同窓会 会長:宮崎 正郎(高14回) 事務局長:木邑 公一郎(高23回)
〒657-0015
神戸市灘区篠原伯母野山町2-2-1-408 瀬戸 章子(高15回)(事務局次長)方
TEL・FAX078-861-9818
定例総会:毎年6月の土曜日、大阪市内のホテルで開催
- 八代高校岡山同窓会 会長:森田 敦史(高14回)
〒703-8264
岡山市中区倉富7-7 吉田 高範(高18回)方 TEL・FAX086-276-3979
- 八代高校広島県同窓会 会長:谷崎 續(高13回) 事務局長:村田 栄治(高28回)
〒738-0036
廿日市市四季が丘4-6-14 村田 栄治(高28回)方 TEL0829-58-5455
- 八代高校山口県同窓会 会長:山下 鐵洋(高14回)
〒755-0092
宇部市上野中町4-3 重田 千恵子(高18回)方 TEL090-7122-6159
- 八代高校同窓会福岡支部 会長:佐藤 好助(高13回) 事務局長:磯部 和之(高23回)
〒811-1346
福岡市南区老司2-23-80 磯部 和之(高23回)方 TEL092-565-2232
定例総会:毎年7月の博多どんたくに合せて実施、福岡市内の会場で開催
- 八代高校同窓会熊本市支部 会長:冨田 徹也(高10回) 事務局長:松岡 博之(高17回)
〒861-8043
熊本市東区戸島西1丁目3-15 松岡 博之(高17回)方 TEL・FAX096-367-1129
定例総会:隔年10月の土曜日、熊本市内のホテルで開催
- 八代高校大分同窓会 会長:砥上 正利(高10回) 事務局長:松本 宏次(高15回)
〒870-0848
大分市賀来北1丁目2-40 松本 宏次(高15回)方 TEL097-549-3386

委員 岡村 洋文（高25回）

いつも表紙を担当しています。今回の題材が「八代駅」に決まった時、いろんな思いや思い出が脳裏をよぎりました。

ドラえもんではありませんが、八代駅はどこへでも行けるドアのように思っていました。私の人生の節目にはいつも八代駅があったように思います。

今では交通手段がすっかり変わってしまい、駅を利用する回数が減りましたが、萩原町の通りを抜けていくと駅舎が“やあ”とって迎えてくれる気が…します。

委員 西田 晴美（高26回）

広報委員となって一年目。何もわからずに会議に出席しましたが、改めて我が校の伝統の素晴らしさをしみじみ感じているところです。編集に携われたお一人おひとりに深く感謝し、これからの益々の学校の発展を祈念致します。またこの会報紙が同窓生の皆様におかれまして懐かしい青春の思い出の一頁をひもとき、安らぎの服であることを切に願います。

委員 ^{はじめ} 一 親房（高28回）

座談会担当の一（はじめ）です。今回は団塊の世代の先輩方のお話で、長髪問題を機に立ち上がった八高生の勇姿の話や、新旧校舎で繰り広げられた楽しい学園生活の話など、まさに「青春とは何だ」（夏木陽介主演）から始まる東宝青春学園ドラマシリーズの再現でした。しかし、八高史上、唯一3年間丸坊主で過ごされた20回卒の皆さんには泣けましたね。

委員 成尾 善明（高49回）

今回の「八高史」コーナーでは、新校歌「道」に纏わるご投稿を高校12回卒の小林章様より頂き、掲載しました。現在の八高の校歌は、日本を代表する作曲家の林光氏の作曲によるものですが、まさに「道」という題名が示すように、小林さんの合唱経験の節目ごとに校歌の作曲者である林氏とのつながりを見つけることができ、校歌がつなぐ不思議な関係に感慨深いものを覚えました。



高55回（平成15年3月卒）生の皆さんへ

今回は高54回（平成14年3月卒）生から、卒業10年目の学年同窓会の報告をいただきました。

平成25年は高55回卒業10年後の学年同窓会開催年です。開催されましたら、ご投稿頂きますと幸いです。

「平成25年度八代中学・八代高女・八代高校同窓会総会」

平成25年 8月24日(土)

午後12時30分受付開始

総会 13時30分から

懇親会 17時から

会場 八代ホワイトパレス

来年度の大同窓会は、高31回生が担当します。多くの皆さんの御参加をお待ちいたしております。

◆住所変更時の連絡のお願い

事務局では会報発行の際、住所不明で返送される分を極力減らしたいと考えています。

住所変更の際には、事務局までご連絡いただきますようよろしくお願いいたします。

尚、同級生がお亡くなりになったときには、事務局へご連絡いただきますようお願いいたします。

連絡先

〒866-0885 熊本県八代市永碇町856

熊本県立八代高等学校同窓会

TEL 0965-33-4138 FAX 0965-35-8463

メールアドレス

85jimukyoku@hachiko-dosokai.com

八代高校同窓会

検索

<http://www.hachiko-dosokai.com/index.htm>

同窓会告知無料放送!!

幹事さん！

同窓会の呼びかけ、メッセージをラジオから届けます！平成9年10月に、八代にコミュニティFM局エフエムやつしろ 76.5MHzが開局しました。

現在、15周年目を迎え地元の情報中心に発信しています。

・同窓会をしたいけど、呼びかける方法がわからない

・○○ちゃん、元気かな？

などのメッセージに最適です。

例) 八高○回卒の皆さん

お待たせしました！同窓会を○月○日○時から○○で行います。

今回、先生方にもお声をかけていますので多くの皆さんのご参加待っています！

詳しくは、幹事○○ まで

無料で承ります！

放送時間は当局に一任

詳しくは、エフエムやつしろ

TEL 0965-43-7651

メール 765@kappafm.com

